

学校環境緑化 モデル事業



緑の募金では、「ローソン緑の募金」並びに㈱ローソンの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「学校環境緑化モデル事業」を実施しています。

学校環境緑化モデル事業

北海道札幌市立幌西小学校



事業概要

令和7年度の開校100周年記念事業の一環として記念植樹及び樹木環境整備事業を行った。植樹セレモニー当日は全校児童で校庭に集まり、校木であるポプラの植樹をお祝いするために児童会が司会進行を行い、全校で校歌を合唱した。ポプラに大きく育ってほしいという気持ちを込めて歌い、100周年に向けた気持ちづくりができた。

事業成果

校歌に校木である「ポプラ」が出てくる。しかし、現在本校の敷地内にはポプラは植えられていなかった。開校100周年に向けて、校木であるポプラを植樹したことで、学校への愛着や愛校心を生むことができた。また、幌西の森が豊かになり、四季折々の美しい自然にふれることでより良い環境を守り、これから大切にしていこうとする心を育むことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・セレモニーの中で、ローソンの方からご挨拶いただいた時に、子どもから「よく行くローソンで、こんなことをやっているんだ。」と声が挙がった。驚きとうれしさの気持ちから出た歓声だった。このようなつながりがたくさん生まれることで、学校だけでなく家庭や地域も一緒になって、子どもたちを見守る形へと進んでいくのではないかと新しい可能性を感じた。

参加者の声

- ・子どもたちの表情がとても明るかった。児童会長の「校木が帰ってきました。」という言葉がとても印象的だった。学校のシンボルである校木が戻ってくることが、実は子どもたちにとってはとてもうれしいことだったのではないかな。
- ・全校合唱の校歌もグラウンドに響き渡り、とてもすてきだった。参加していた地域の方々も懐かしさと後輩の頼もしさに聞き入っている様子であった。



植樹セレモニー



植樹セレモニーは児童会が司会進行



校木であるポプラなどを植樹



事業看板と記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.026ha
植付本数：26本
イベント：1回

参加者数

学内：890人
学外：50人
計：940人

樹種

ポプラ、ヤマグワ、ヤマボウシ、ニシキギ、コデマリ、ドウダンツツジ

学校環境緑化モデル事業

北海道岩見沢市立北村小・中学校



事業概要

小学校・中学校が一貫校としてスタートを切る記念、シンボル事業として、エゾヤマザクラ、アカエゾマツの記念植樹を行った。この緑化活動を通じ地球温暖化防止などの環境問題を考えることにつなげていく。

事業成果

緑豊かなまちづくりとかけがえのない木々を守り育てる気持ちを養うことができた。また、地球温暖化や森林破壊などの環境問題について、意識を強めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新しい木が2本も増えたことで、緑豊かな景観へと変わり、新たな出発の良い門出となった。代表の子どもたちは、植樹の体験をすることができ貴重な経験となった。
- ・植樹段階では青々とした木々が春には花を咲かせ、秋には葉を落とすなど、四季折々の姿を見ることが楽しみである。

参加者の声

- ・木の成長を見守り、今後は環境問題にも目を向けたいと思う。
- ・木の成長とともに、自分の成長や時間の経過を感じるきっかけにしてほしい。



代表の子どもたちが植樹を体験



アカエゾマツを植樹



代表児童・教職員など170人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3㎡
植付本数：2本
イベント：1回

参加者数

学内：150人
学外：20人
計：170人

樹種

エゾヤマザクラ、アカエゾマツ

創立110周年記念及び石鉢緑の少年団結成記念「石フワリンの森再生事業」

青森県階上町立石鉢小学校



事業概要

児童が自然の中で遊んだり学んだりすることで、より身近に自然を感じ、健やかな心・頭・体・生活の成長につなげていくことを目的とし、本校の児童が、より優しく、よりたくましく教育目標「太陽のように輝く子」のように育てほしいという願いを込め、以下を実施した。敷地内の一角にある「石フワリンと石くまオンの住む森」の環境整備、校庭のサクラの枝の剪定、募金PR看板の設置。

事業成果

「石フワリンと石くまオンの住む森」の環境整備の実施により、教室からも様々な動植物を観察することができた。今まで教師が連れて行かなければ行かないような森であったが、児童が自ら森に行って遊ぶようになった。栗を拾ったり、キツツキを観察したりし、それをうれしそうに教えてくれた。子どもの笑顔と優しさが増えた。校庭のサクラは、春に全校写真を撮る自慢の木でさらに自慢になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちが毎日ふれる自然が「きれい」になり、四季の変化などの子どもの心に感じさせるものがはっきり分かるようになった良い事業だ。
- ・もともとあった石や木の根など、児童が走り回ることも考えると、安全性をもっと高める必要があった。
- ・より利用価値の高いものにするためには、2年に1度程度の実施にし、もう少し拡大した事業にしてほしい。

参加者の声

- ・「とてもきれいになってうれしいし、みんなで遊べるのが楽しい。」「植物には、様々な種類があるんだね。どんな花が咲くのかな。」「キツツキがきていたよ。森は動物にとっても宝なんだね。」(児童の声)
- ・子どもたちにとって、自然環境はとても大切だ。整備いただき、教室では得ることのできない子どもたちの学びの場や遊びの場になった。ありがたいことだ。(教育委員)



「石フワリンと石くまオンの住む森」の環境整備実施前(左)と後(右)



完成式典



代表児童・教職員など84人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
下刈面積：0.25ha
除伐面積：0.25ha
イベント：1回

参加者数

学内：77人
学外：7人
計：84人

樹種

ドウダンツツジ、ヨシノザクラ、テマリカンボク

学校環境の緑化を通じた環境教育の推進

岩手県八幡平市立田頭小学校



事業概要

学校敷地内の樹木が大きく成長したことや、講堂への採光や学級農園の日当たりを良くするために、以下の環境整備を実施した。①講堂付近のサクラ10本と、学級農園付近のナナカマド11本、シダレザクラ1本の枝払いや剪定、②今回の事業の記念として、校庭にサクラ2本、庭園にイロハモミジ1本を植樹。

事業成果

学校敷地内の樹木の枝払いや剪定をしていただいた結果、景観がすっきりとした。講堂内にもより日差しが入るようになり明るくなった。また、学級園への日当たりも良くなったことで、植えた種や苗の成長も良くなり、児童が意欲的に世話活動を行っている。台風などの強風で枝が折れる心配も減り、安心して生活できる学校環境を整備できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校予算だけでは実施できない環境整備作業を本事業の助成金で実施することができたことに感謝する。この事業をきっかけに、さらに環境整備が必要な場所も明らかになり、各所へ協力を要請しながら計画的に学校環境の緑化整備を推進していきたい。また、地域の植樹作業への児童の参加も継続していきたい。

参加者の声

- ・講堂脇のサクラと学校農園脇のナナカマドの剪定をしていただき、明るくすっきりとなり、日当たりもとても良くなった。イロハモミジとサクラの記念樹もありがとうございます。この記念樹に、僕たち田頭小学校児童の学ぶ姿や遊ぶ姿、運動する姿を見せていき、この記念樹と共に助け合いながら成長していきたい。これから、この記念樹の成長を見るのも楽しみだ。(6年児童会長)



高木のサクラ、シダレザクラ、ナナカマドは剪定・枝払いを実施



記念植栽



児童・教職員など73人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.003ha
植付本数：3本
枝払面積：0.055ha
イベント：1回

参加者数

学内：65人
学外：8人
計：73人

樹種

植樹：サクラ、イロハモミジ
枝払・剪定：サクラ、シダレザクラ、ナナカマド

盛岡市立仁王小学校 創立 150 周年記念環境整備事業

岩手県盛岡市立仁王小学校



事業概要

仁王小学校創立150周年を祝して記念事業を実施し、本校の歴史と伝統を振り返り、今後の本校の進む方向性を確かなものにするとともに、記念事業の一環として環境整備事業を行った。中庭の緑化及び整備を通じて、児童への環境教育に資するとともに、児童はもとより教職員や保護者、地域を始めとする関係者の本校への誇りと愛着をより一層の育む機会となった。

事業成果

殺風景で自由に出入りすることができなかった中庭が、本事業での整備を通じて、休み時間などを利用して自由に出入りすることが可能となった。多くの植物などに触れることもでき、環境教育の面からの効果や、心情的な面からも癒しの空間となっている。また、記念事業の一環として整備したことで、児童及び教職員、保護者などが本校への愛着をより一層育むことができる貴重な事業となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回創立150周年記念事業の一環として本事業を推進するにあたり、地域や関係者から多くの協賛金に御協力いただいた。これは、本校が改めて地域の支えによって成り立っていることを確認する機会であり、本校が今後一層地域とともに歩み続けることを期待するものである。また、子どもたちも木々や植物と同様に健やかに成長し続けることを願いたい。(創立150周年記念事業協賛会会長)

参加者の声

- ・創立150周年の節目で記念事業として中庭整備を行ったことは意義深い。子どもたちにはこの中庭とともに仁王小学校で学ぶ喜びや誇りを感じてほしい。(PTA会長)
- ・中庭がとても明るく華やかになりとてもうれしい。中庭で友達と仲良く遊んだり、植物を観察したりできることがとても楽しみ。これからも全校でこの素敵な中庭を大切に使っていきたい。(学校児童会計画委員)



完成式典



代表児童より今後の中庭活用抱負の挨拶



シランを記念植栽



児童・教職員など25人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：100㎡
植付本数：739本
除草面積：250㎡
除伐本数：4本
張芝面積：100㎡
切石据付：20個
イベント：1回

参加者数

学内：20人
学外：5人
計：25人

樹種

イロハモミジ、エゴノキ、ウワミズザクラ、ハウチワカエデ、ヤマボウシほか

花いっぱい町の花いっぱいの学校

宮城県柴田町立柴田小学校



事業概要

既存の学校花壇の老朽化が進んで、横木が腐食してもろくなっていたため、古い花壇を取り壊し、石と階段でできた花壇「わくわくガーデン」を整備した。「わくわくガーデン」には、町の特産品であるユズやブルーベリー、アーモンド、ハーブなどを植えて、1年中楽しめるように工夫した。

事業成果

校舎と体育館の前にたくさんの花が植えられ、学校の雰囲気一段と明るくなった。冬の花を全校で植栽したが、花壇の名前のとおり、みんな「わくわく」しながら活動していた。休み時間は、花壇のそばの階段で日向ぼっこをしてくつろいでいる姿も見られる。また、校舎前に3か所の階段が設置されたことにより、校舎から校庭への児童の動線が確保された。

事業をよく知る関係者の声

- ・果樹の収穫は、将来につながる活動で、子どもたちが伝統として引き継ぎながら活動をしてほしい。(学校運営協議会委員)
- ・校舎前にできた3か所の階段は、子どもたちの安全な避難経路を確保する上でとても大切で、安全・安心な学校づくりとして素晴らしい取り組みである。(学校評議員)

参加者の声

- ・ブルーベリーやユズ、アーモンドを植えたので、それを収穫するのが楽しみ。(5年児童)
- ・花壇の周りを歩くと、チョウチョやミツバチが飛んでいて、何か楽しくなる。(1年児童)
- ・階段や大きな石があるので、そこに座っていると気持ちが良い。(4年児童)



校舎前の「わくわくガーデン」



完成式典



児童・教職員など68人が参加



植えられた木の近くには事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.015ha
植付本数：30本
イベント：1回

参加者数

学内：60人
学外：8人
計：68人

樹種

サクラ、ユズ、ブルーベリー、アーモンドほか

仙台市立生出小学校創立150周年記念緑化事業

宮城県仙台市立生出小学校



事業概要

仙台市立生出小学校150周年記念の一環として、記念緑化事業に取り組んだ。活動は以下のとおり。①記念樹を150周年のシンボルとし、愛校心を高めるとともに自然を愛する心を養う、②樹名板の設置(150周年記念プレート)により、記念樹が緑の基金によって植樹されたことを後生に残す、③枝落下の危険がある樹木の剪定により、児童が安全に樹木の下で遊べるようにする、④学校花壇の整備を行い、緑に囲まれた環境をつくる。

事業成果

植樹記念式典は児童の心に残る式典となった。児童たちは記念樹の成長を見守ったり、記念プレートをのぞき込んだりしており、愛着を持っていることが伝わる。樹木の剪定により、安全性が高まり、空間も広がり、見通しが良くなったことで、樹木の下で遊ぶ児童も増え、憩いの場となっている。花壇の整備で、花を愛でる児童が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・150周年記念にふさわしい植樹式典だった。記念樹として選んだハナミズキは「永続性」の意味があるとのことで、これからも親子で見守っていきたい。(PTA役員)
- ・150周年記念プレートがあることにより伝え続けていける。(同窓会長)
- ・強風や大雨で樹木の大枝が落下し、児童のケガが心配であった。剪定により安心できた。(学校運営協議会委員)

参加者の声

- ・記念植樹式典は初めて参加した。この木が150周年のシンボルであり、みんなで大切にしていけることを後輩たちに伝えていきたい。(6年生児童)
- ・樹木の剪定により安全に児童が遊べるようになった。プール周辺の樹木の剪定は、プール内に落ち葉や虫が以前より入らなくなったので、とても良かった。(高学年担任)
- ・自然を大切にする心が育つと思う。(保護者)



ハナミズキ横に設置された樹名板の除幕式



代表児童らが植樹に参加



枝落下の危険がある樹木の枝を剪定



代表児童・教職員など141人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
イベント：1回

参加者数

学内：118人
学外：23人
計：141人

樹種

ハナミズキ

学校環境緑化モデル事業

宮城県涌谷町立月将館小学校



事業概要

本事業は、学校敷地内の緑化活動を目的として行われた。具体的な活動としては、次の2点である。①校庭の東西にあるプラタナスやトチノキなど、背の高い樹木の手入れを行う、②緑が少なかった校庭南側へ新たに植樹場所を整備し、実のなる樹木を植える。

事業成果

高所のため手入れが困難で伸び放題だったプラタナスやトチノキの剪定で、校庭の樹木がすっきりとした。また、殺風景に感じられていた校庭南側に植樹をしたことで、緑に囲まれたすばらしい学校環境となった。児童は、季節を感じられる樹木、学習にも役立つ樹木を植樹したことで、樹木の成長を楽しみにしている様子がうかがえる。さらに、様々な樹種を植樹したことで、樹木への興味関心が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・緑の募金という一人一人の優しい気持ちが、大きな形となり児童のための緑化事業につながっていることがすばらしい。植樹された木々が、児童と一緒に成長していくことが楽しみだ。(PTA 会長)
- ・(株)ローソン様の「緑の募金」により、月将館小学校みんなの森が完成し、すてきな式典に心が温まった。森も校木と同様に子どもたちの成長を見守ってくれるだろう。森の適切な管理が大変かもしれない。(PTA 本部役員)

参加者の声

- ・「緑の募金事業」完成式典の一環として、みんなの森の植樹作業を環境委員のみんなと一緒にできて良かった。在校生のみんなに世話を頑張ってもらいたいと思う。(6年児童)
- ・植樹をしながら、この木は何年たったら校木プラタナスみたいなでっかい木になるんだろうと思った。早く実を付けてみんなを喜ばせてほしい。(6年児童)



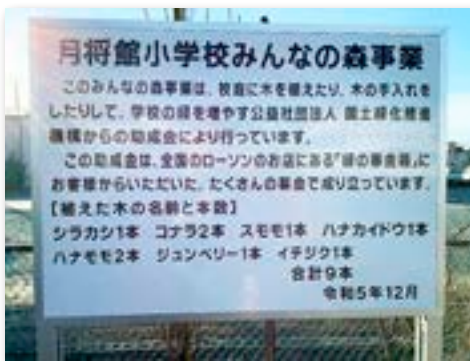
7種類の樹木を植え、高木のプラタナスやトチノキは剪定を実施



植樹の様子



代表児童・教職員など157人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.016ha
植付本数：9本
イベント：1回

参加者数

学内：151人
学外：6人
計：157人

樹種

シラカシ、コナラ、スモモ、ハナカイドウ、ハナモモほか

木にふれあい 木に学ぶ

秋田県大仙市立南外中学校



事業概要

学校敷地内(旧テニスコート)での緑化の取り組みを通して、環境保全の意識向上と地域の自然環境への関心を高める。作業は以下のとおり。①サクラ(ジンダイアケボノ)20本の植樹、②サクラ・スギなど10本の整枝作業を実施した。

事業成果

今回の取り組みにより、自然環境を保全する意識と、豊かな自然に恵まれた地域への愛着を高める機会が得られた。身近な校庭に生徒全員が植樹したことで樹木への愛着が増し、樹木を大切に育てる意識が醸成された。

事業をよく知る関係者の声

- ・現在は使用されていない旧テニスコート脇にサクラを植樹することにより、樹木の成長を間近に観察できるようになった。また、将来サクラの花が咲く頃には地域の方々にもご来校していただき、憩いの場として活用されることを期待したい。

参加者の声

- ・みんなと協力してサクラを植えることができた。これからも地域の緑を大切にしたい。(中学1年生)
- ・自分たちの手で緑を増やせて良かった。また、自然の大切さについて、あらためて考えることができた。(中学3年生)



完成式の様子



サクラを植樹



生徒・教職員など66人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.005ha
植付本数：20本
整枝本数：10本

参加者数

学内：61人
学外：5人
計：66人

樹種

植樹：サクラ
剪定：スギ

学校環境緑化モデル事業(果樹畑整備事業)

山形県鶴岡市ちわら菜の花こども園



事業概要

園庭の緑化を推進するとともに、園児に対する食育の一環とするため、5種(カキ、クリ、リンゴ、サクランボ、ブルーベリー)計17本の果樹を植樹した。また、果樹を育てる過程で育ち方を観察することにより、植物の成長に興味を持ち、また収穫までの苦労を知ることで食物を大事にする心を育む。

事業成果

樹木がなく殺風景な園庭に果樹を植樹したことで、景観が良くなった。毎日の水やりを行うことで、植物を観察する動機付けとなった。植樹により持続可能な開発目標(SDGs)の達成に多少なりとも貢献できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今はまだ小さな苗木だが、水やりなどの管理をしっかりと行い、大きく育ててほしい。
- ・果樹は病害虫対策が大切になるので、りっぱな果実を育てるには苦労もあるが、園児と共に頑張ってもらいたい。
- ・野菜のようにすぐに収穫はできないが、収穫できる日が待ち遠しい。

参加者の声

- ・早く実がなってほしい。(園児)
- ・早く食べてみたい。(園児)
- ・水やりを頑張りたい。(園児)
- ・小さな苗木のため、しっかりと育てられるか心配。(職員)
- ・何年後か、果樹林となった景色を見てみたい。(職員)



記念植樹



5種の実のなる木を植樹



園舎の近くに看板を設置



園児・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：約0.09ha
植付本数：17本

参加者数

園内：34人
園外：6人
計：40人

樹種

カキ、クリ、リンゴ、サクランボ、ブルーベリー

ふれあいの森整備事業

福島県矢吹町立三神小学校



事業概要

東日本大震災以降、環境整備ができなかった「ふれあいの森」を子どもたちが自然にふれあえるような場にする事を目的として事業を実施した。主な活動は、枝落としや遊歩道の整備（除伐、ロープ設置）。

事業成果

3年生では、年に2回、春と秋に森林環境学習を行っている。春には「ふれあいの森」の奥には行けなかったが、秋には奥まで散策することができるようになった。木の名前を調べてネームプレートを作ったり、森にいる鳥や虫などの観察を行ったりすることができる。環境を考える学習にも広がる。

事業をよく知る関係者の声

- ・福島県森林・林業・緑化協会の方に相談しながら、書類作成や式典の準備をスムーズに進めることができた。整備については、西白河森林組合の方と打合せを行い、現場を確認しながら進めることができた。初めて全校生で散策した際、子どもたちは歩けるようになった遊歩道に感激し、とてもうれしそうだった。

参加者の声

- ・ふれあいの森を整備してくださり、ありがとうございます。今までは、草が多く、狭い範囲でしか散策できず、近くにたくさんの自然があるのに、思い切り活動することができなかった。今回、整備していただいたことで、より多く自然にふれあうことができる。これから、様々な活動で、ふれあいの森を活用していきたい。（6年児童）



整備された「ふれあいの森」の前で完成式



サルスベリを記念植樹



代表児童・教職員など132人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
遊歩道除伐面積：0.34ha
遊歩道ロープ設置：290m
イベント1回

参加者数

学内：127人
学外：5人
計：132人

樹種

サルスベリ

校庭の樹木整備事業

福島県大玉村立大山小学校



事業概要

学校創立150周年記念と関連付けて、学校環境の整備を実施。主な活動は以下のとおり。①ジュウガツザクラの植樹、②高木剪定（サクラ11本、クヌギ1本、エノキ1本、ハナミズキ3本、モクレン1本、ユズリハ1本、ツバキ2本、モミジ1本、カリン1本）、低木剪定（ユキヤナギ1本、ドウダンツツジ2本、ヒラドツツジ6本、アオキ1本）。

事業成果

樹木がきれいに剪定され、学校環境が整った。児童の環境に対する意識、特に緑化に対する意識が高まった。記念樹としてジュウガツザクラを植樹したことにより、樹木に対する愛着が芽生えた。ローソンの緑化貢献事業として取り組んでいる緑の募金から、今回の経費が支出されていることを知り、人々の善意が環境問題の改善につながると気

づいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・無駄な枝が抜かれて樹形が整い、栄養が枝に集中し、良い花が咲く。（記念植樹（ジュウガツザクラ）、樹木剪定作業を行った園芸業者）
- ・学校創立150周年の良い記念となった。（記念事業の看板を製作・工事を行った施工業者）

参加者の声

- ・ローソンがこうした事業にお金を出していることを初めて知った。自分も今度募金したい。
- ・校庭の木が本当にきれいになってうれしい。
- ・二回咲くという珍しい桜の花を見てみたい。

（参加した児童）



完成記念式典



児童が向かっている方向に植樹や剪定された木々



ジュウガツザクラを記念植樹



児童・教職員など52人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
剪定本数：32本
イベント1回

参加者数

学内：47人
学外：5人
計：52人

樹種

植樹：ジュウガツザクラ
剪定：サクラ、クヌギ、エノキ、ハナミズキ、モミジほか

SKGs -Sustainable Komagatasho Goals(持続可能な駒形小の杜 再生事業)

群馬県太田市立駒形小学校



事業概要

40年ほど前の開校当時に植えた木々が大きく成長して、密集し、蛇や害虫のすみかになっている。また、大量の落ち葉の発生や落木の危険などの恐れが出てきている。本事業では、伐採や剪定、植樹を積極的に行うことで、いつまでも人に優しい自然環境を持続していくという、正しい環境緑化について児童が実体験として学ぶ機会をつくる。

事業成果

「木を伐ることは自然破壊だ!」などと誤解している子どもたちに、本事業を頭髮に例えて話したことで、伐採や剪定などの必要性を理解させることができた。また、安心安全につながる見通しの良い学校環境を実感させることができた。環境緑化に関わる多くの方々の姿を間近で目にしたことでキャリア形成の一助にもなったと考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・樹木を伐採、剪定することで見通しが良くなり、不審者対応の意味からも安心安全な学校となった。
- ・「伐りすぎて木がかわいそうだ」「CO₂を吸収する木を伐ることは環境に優しくないのではないか」などの意見が寄せられた。学校だよりや口頭で、緑を育む上では伐採や剪定も必要であることを伝え、御理解いただいた。

(保護者)

参加者の声

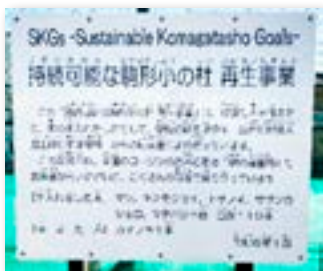
- ・今回の伐採や剪定により、学校全体が明るくなった気がする。また、毎年大変だった秋の落ち葉掃除も楽になると思う。今回の植樹で駒形小のシンボルツリーであり、学問の木とも言われるカイノキが3本となった。その木に見守られ、勉強を頑張りたい。(児童代表)



カイノキを記念植樹



伐採前(左)、伐採後(右)



看板を設置



児童・教職員など366人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
伐採・剪定本数：110本
イベント：1回

参加者数

学内：354人
学外：12人
計：366人

樹種

植樹：カイノキ
伐採・剪定：マツ、キンモクセイ、トチノキ、サザンカ、シュロほか

藤岡特別支援学校 いこいの杜緑化事業

群馬県立藤岡特別支援学校



事業概要

開校10周年に合わせて、校舎北側にある雑種地に4品種合計20本のオリーブの苗を植樹し、近い将来的に「オリーブ園」として活用できるように土壌改良や整地、緑地化を行った。「オリーブ園」は生徒の学習活動の拠点として、さらに、地域の方々にも憩いの場となるよう遊歩道やベンチなどを順次整備を進め、本校生徒と地域の方々との交流の場として有効活用できるようにする。

事業成果

生徒の環境学習並びに果樹の栽培学習、収穫した果実の利用方法、農産物の6次元化についての学習など、多岐にわたる学習活動を行うことができるようになった。造園や木工の学習では、遊歩道の整備や休憩施設やベンチなどの製作を手掛けることも可能となった。また、本校生徒と地域の方々とのコミュニティの場として活用されることが期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・校舎北側にある雑種地を有効活用するために整地し、オリーブの苗を植樹したことにより、景観が良くなった。生徒が授業内でオリーブの果実の収穫作業や管理作業などの体験学習を行えるようになった。遊歩道などの整備を進め、地域の方にも快適に利用していただけるようなオリーブ園にし、地域の方と生徒とのコミュニケーションの場として活用していきたい。(校長、教職員)

参加者の声

- ・これまでは植物などを栽培することができないような空き地で、授業では単純な石拾いや除草作業ぐらいの活動だった。今回の事業でオリーブを植樹し「オリーブ園」となったことで、生徒ひとりひとりが「オリーブが元気に育つように」と、思いやりの心を持ってオリーブの栽培管理や環境整備作業に取り組めるようになり、とてもうれしい。(生徒)



令和5年10月2日にオリーブ4品種を植栽



植栽後のオリーブ



生徒・教職員など41人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10a
植付本数：20本
整地面積：10a
イベント：1回

参加者数

校内：37人
校外：4人
計：41人

樹種

オリーブ

学校環境緑化モデル事業

群馬県富岡市立妙義小学校



事業概要

子どもたちの自然環境への理解や興味関心を広げ、感性や表現力、生きる力の向上を目的とし、主に以下の活動を実施した。①ミカン3本の植樹：植樹後は、環境ボランティア委員会を中心に水やりや除草など周辺的环境整備を定期的に行い、全児童でミカンの木の成長を見守っている、②ヒマラヤスギ・マツの剪定：枝葉が大きくなっているため、子どもたちの安全面を考え、剪定を行った。

事業成果

ミカンの植樹経験は、木々（自然）と私たち（人間）との関わりを考え、持続可能な社会（私たちの未来）とは、どのような社会であるか、子どもたち自身が考える教育の機会となった。また木の成長を見守る活動を通して、モノを大切にしようとする心を育てるきっかけとなった。ヒマラヤスギ・マツの剪定により、木の成長を遅らせ、美しい樹形に保つことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・パンジーが植えられていた妙義小学校の庭園に、ミカンの木が3本加わり、さらに自然あふれるきれいな庭園になった。
- ・ヒマラヤスギが大きく成長し、枝葉が公道まではみ出ている状態であった。強風時は枝の落下の可能性があり近くを通ることが危険だと感じていたが、今回の剪定で安心して道を通れるようになった。

参加者の声

- ・大きなミカンの木に成長するよう、水やりなどの世話を子どもたちが積極的に行ってほしい。
- ・ヒマラヤスギ・マツを剪定し、緑豊かなきれいな妙義小学校であると感じた。
- ・今回の事業を通じて、自然について深く考える教育的意義のある活動にしてほしい。



植樹は授業内で全児童44名で行った



児童・教職員など32人が参加



剪定したヒマラヤスギ、マツ



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
剪定本数：2本
イベント：1回

参加者数

学内：23人
学外：9人
計：32人

樹種

植樹：ミカン
剪定：ヒマラヤスギ、マツ

蝶の舞う学校に

埼玉県久喜市立本町小学校



事業概要

本校の50周年を記念して、児童・職員・保護者・地域の記憶に残るよう、記念樹としてミカンの木を植樹した。ミカンの木を植えることで蝶を集め、隣接する本校のビオトープの自然をより豊かにすることがねらいである。また、植樹と併せて、校地内の緑化環境を整えるため、伐採や伐根を実施した。

事業成果

1学期に植樹を行い、11月に完成記念式典を行った。全校児童が参加して式典を行ったため、「50周年の木」として強く印象に残った。また、植樹後にミカンの木に蝶が集まっている。隣接するビオトープの方にも飛んでいっており、本事業のねらいである「ビオトープの自然をより豊かにすること」「蝶の舞う学校にすること」に向けてより大きな効果が期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・校地内の自然環境を整えるための予算などの関係で断念していたが、本事業により着手できなかった伐採・伐根を進めることができ、環境を整えることができた。また、開校50周年記念行事ともタイアップし、「50周年記念樹」としてミカンの木を植えたことで、児童や保護者・地域への意識付けにもつなげることができた。

参加者の声

・ショベルカーで木を植えるところを初めて見たので、驚いた。総合的な学習の時間の授業で、しかけをつくってビオトープに生き物を集めたが、ねらいとする生き物が来た時にはとてもうれしかった。このミカンの木にいろいろな生き物が集まって、本町小の自然がもっと豊かになってくれると良いと思う。また、実際にミカンを食べてみたら、とてもおいしかった。来年も食べたい。(3年生児童)



記念樹ミカンの木をクレーンで移動



代表児童がミカンの木を植樹



代表児童・教職員など314人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：25㎡
植付本数：2本
除伐面積：250㎡
イベント：1回

参加者数

学内：310人
学外：4人
計：314人

樹種

ミカン

創立 150 周年記念・学校緑化整備事業

千葉県白子町立南白亀小学校



事業概要

本校は、児童数125名の今年創立150周年を迎えた伝統校である。この150周年の節目に、サクラを植樹して生きた記念品を残し、子どもたちとその成長を見守っていくことを目的に本事業を行った。また、敷地外の道路までに枝が広がっていた大きな樹木5本の剪定を行った。

事業成果

創立150周年記念事業として、植樹することにより、子どもたちの樹木の成長を願う気持ちを、より高められた。式典の中で、事業が募金から成り立っているという説明を受け、日頃の募金と実際の活動との結びつきを感じることができた。また、剪定については、以前は職員が路上の落ち葉回収に、毎日多くの時間を割いていたが、その必要がなくなり、負担が軽減した。近隣住民から「学校の葉が敷地に入ってくる」といった声も無くなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・150周年の節目に、子どもたちにとって記念となる植樹ができた。木々の成長を見守ることをとおして、自然・生命を大切にする心情を育み、木々とともに、健やかに成長してほしい。剪定は、木々の木陰が体育の見学者の待機場所になっていたのも、枝を長めに残してもらって良かった。剪定した枝はすぐに緑の葉が付きはじめ、木の生命力・再生力を実感させることができた。(関係職員)

参加者の声

- ・植樹ができ、150周年の記念を学校に残せて良かった。この歴史とともに、自分たちも成長し、夢を叶え、将来満開の花を咲かせたい。卒業しても、学校に行ったらサクラの成長を見守りたい。木の枝が切られたときは、少し寂しい感じがしたが、切った場所から枝や葉が付きはじめて驚いた。風で大きい木や枝が折れないか心配だったけれど、今は風が強い日も安心してグラウンドで遊べる。(児童)



完成式典



サクラを記念植樹



代表児童・教職員など149人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20㎡
植付本数：2本
剪定面積：50㎡
剪定本数：5本
イベント：1回

参加者数

学内：140人
学外：9人
計：149人

樹種

植樹：サクラ
剪定：ケヤキ、プラタナス

150周年記念 ビオトープ 寒川憩いの泉再生事業

千葉県千葉市立寒川小学校



事業概要

前庭の老朽化した池を再生させ、子どもたちの憩いの場や自然観察の場とするために、PTAと協力して池の改修工事を行った。主な活動は、老朽化したフェンスの撤去、池の補修、ビオトープとしての流れや池の新設工事、周囲の植栽など。

事業成果

改修工事を行った結果、水の流れのあるビオトープが完成した。完成してから2か月程度だが、既に子どもたちの憩いの場となっており、休み時間にビオトープ周辺に集まって、水の音を楽しんだり、生き物を探したりする子どもたちがたくさんいる。子どもたちからは、「どんな生き物がいるのか」「これからどんな生き物が集まってくるのか」などの発言が聞こえてきた。暖かい季節になり、生き物が集まってきたときに子どもたちがどのような反応をするのか、とても楽しみになるビオトープになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・これまでの状態と比較すると劇的な変化を遂げたと感じる。子どもたちの関心をかなり集めているのを見ていて分かる。今後どのような生き物をビオトープに生息させるか検討し、子どもたちの情操教育にも役立つようなビオトープになってほしい。ビオトープは、完成後の維持管理が大切になるので、子どもたちのためになるような管理をしていく必要がある。(理科・園芸主任)

参加者の声

- ・学校に流れる川や池があるのがすごい。
- ・水の流れる音が聞こえるのが楽しい。
- ・水の中にはどんな生き物がいるのかな。
- ・春や夏になったらオタマジャクシやカエルは見られるかな。
- ・ヤゴは絶対に見つかると思う。

(子どもたちの声)



作業の様子



記念式典



記念植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

ビオトープの制作
(小川: 1.8m、池: 1.8×2m)
植付本数: 5本
イベント: 1回

参加者数

学内: 554人
学外: 32人
計: 586人

樹種

モミジ、ヤマボウシ、ハナミズキ

ビオトープ池整備工事

東京都青梅市立第七小学校



事業概要

150周年事業の一環で、児童が四季による自然の変化にふれながら、小曾木の自然に親しむ態度とともに、観察する力、環境を大切にすることを目的として、学校敷地内にあった池を新たなビオトープ池にするための池の内外の環境整備を行った。ビオトープ池作りは、専門家からの児童への講話を軸に進め、ビオトープの土は学区内の休耕田から採取し、土の中で眠っていた「種」を復活させながら、生き物が自然と集まることを目指した。

事業成果

ビオトープ池内外の自然環境及び設備環境の改善により、ビオトープ池を軸とした本校の新しい環境学習を推進する計画が立てられた。また、専門家によるビオトープ池整備に対しての助言、2回にわたる児童へのワークショップにより、小曾木ならではのビオトープ池が完成し、さらに、児童のビオトープへの意識づけが大きく変化した。

事業をよく知る関係者の声

- ・良かったこととして、ビオトープ池が児童にとって良き学びの場になる可能性を秘めていること。そして、ビオトープ池に地元の休耕田の土を利用していることもあり、自然への興味関心だけでなく、地域への愛着にもつながることを期待している。課題としては、ビオトープ池の維持管理部分。人とコストとの両面について、地域として何か協力できたらと思う。

参加者の声

- ・自分たちで考え、作業して作ったビオトープ池をこれからもずっと大切にしていきたい。どんな植物が芽生えてきて、どんな生き物がやってきて、どんな生活や姿を見せてくれるのかを観察するのが今からとても楽しみ。(児童)
- ・休耕田の土を掘り起こし、200袋の土嚢袋に詰めて運んだのは大変な作業だったけれど、その分どのようなビオトープになっていくのか、今後が楽しみ。(児童)



専門家によるビオトープ池整備のワークショップ



意見を付箋に書き出してビオトープ池を構想



ビオトープになる予定の池に石と休耕田の土入れ



土(泥)の中に眠っていた種が発芽して草が成長

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2a
植付本数：3本
下刈面積：2a
除伐面積：2a
イベント：6回

参加者数

学内：54人
学外：20人
計：74人

樹種

ミカン、サンショウ、ジュンベリー

御成小学校九十周年記念緑化事業

神奈川県鎌倉市立御成小学校



事業概要

本校の90周年記念の事業として、中庭中心に緑環境を整え、枯れかかっていたシンボルツリーの植え替えを行った。主な活動は以下のとおり。①キリ5本の植え替え、②サツキ100本の植樹、③芝生整備、④遊歩道整備。

事業成果

創立90周年記念式典では、6年生が代表して参加し、運営を行った。三部制で、第一部は、御成小学校中庭リニューアル記念とシンボルツリーであるキリの植樹を行った。中庭は芝生を整備し、囲むようにサツキをきれいに植え、土が流れないように遊歩道を設置したので、緑あふれるすてきな憩いの場となった。また、シンボルツリーの植樹によって、子どもたちにとって命をつなげる大切さを学習する機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・90周年を機に、学校の緑を手入れすることができて良かった。特に、シンボルツリーである「キリ」が枯れかかっていたため、植樹して次の世代につなげられて良かった。また、子どもたち、卒業生にとって中庭は憩いの場である。整備されたことによってさらに気持ちの良い空間となった。

参加者の声

- ・本校のシンボルツリーは、校章のマークになっている「キリ」である。ここには最後の1本が植えられていたが、残念ながら枯れてきてしまった。そこで、今年の春に花が咲いた後、種を採り、それを植木屋さんに大切に育てていただき、苗木となった。生き残った5本のうちの1本を中庭に植えた。この先、子どもたちと一緒に大きく育ってくれたらうれしい。そして、いつかすてきな花をまた咲かせてほしい。



緑化整備



完成式典でキリを植樹



整備された中庭



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：105本
芝生整備
遊歩道整備

参加者数

学内・学外：約100人
計：100人

樹種

キリ、サツキ

仏向小学校 60 周年 校庭サクラ再生事業

神奈川県横浜市立仏向小学校



事業概要

横浜市立仏向学校の創立60周年記念事業の一環として、校庭側に並んでいた倒木の危険があるソメイヨシノの老木を伐採し、新しくソメイヨシノの苗木を植樹した。さらに、ソメイヨシノについての説明看板を設置した。

事業成果

植樹時には多くの児童が観察し、苗木に触れ、土をかける体験を通じて自然と親しんだ。たくさんの児童が集まり、事業者からも植樹についての説明をいただくことができた。植樹の様子は令和5年度の創立記念式でビデオ上映され、全校児童と共有された。成長過程を見守ることに期待が高まっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・創立60周年に向け、記念植樹と位置付けることで児童の

学校や地域に対する愛着をはぐくむことができる。今回植えたサクラを児童のみんなで大切に育ててほしいと願っている。卒業後にも児童が学校を訪れ、サクラの成長を見ることで自分の成長を感じたり、小学校のことを懐かしく振り返ったりする機会となつてほしい。(地域代表者)

参加者の声

- ・植樹に参加して、自分たちで土をかけた苗木が大きくなるのを見ていけるのは、とても良い経験になる。これから毎日、木が育っていくのを見られると思うとわくわくする。(児童代表)
- ・仏向小学校を代表する木として、力強く育ってほしい。学校がもっと緑に囲まれて、成長していく木を友達と一緒に見守るのはすてきなことだと感じる。(児童代表)



倒木の危険があるソメイヨシノの伐採



ソメイヨシノを植樹



苗木の土かけを体験



代表児童・教職員など50人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1a
植付本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：40人
学外：10人
計：50人

樹種

ソメイヨシノ

生地小学校「生地っ子しょうず」緑化事業

富山県黒部市立生地小学校



事業概要

目的は、ビオトープ環境の再整備及び学校周辺部の危険木の伐採である。主な活動は以下のとおり。①学校周縁部の高木（危険木）の伐採・剪定作業、②ビオトープ周りの中低木の剪定作業、③ビオトープのシンボルのヤナギやミカンの木の剪定。

事業成果

学校周縁部の剪定・伐採をしたことにより、竜巻や突風の影響で、倒木する恐れが少なくなった。また、ビオトープの周辺に、光が降り注ぐ環境を取り戻すことができ、児童が、「生地っ子清水」を利用した多様性について学習する環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

- ・平成13年に学校関係者や保護者で整備した「生地っ子清水」を中心としたビオトープの木々が成長し、電線に触れたり、落ち葉や折れた枝が周辺の道路や民家に落ちたりして危険な状況になってきていたが、児童が安心して遊べる空間に変わった。花壇に縦割り活動で花を植えていたが、外からよく見えるようになった。

参加者の声

- ・木が伐られると虫が戻ってくるのか不安だけれど、ミカンの木に日が当たり、逆にアゲハチョウなどが寄ってきやすくなったと思う。春が楽しみだ。
- ・ぼくたちの「生地っ子清水」がすっきりとした。清水に生息している「トミヨ」も喜んでいると思う。



ビオトープの低中木の剪定・伐採後



高木枝おろし前（左）、後（右）



ペコニアを植え花壇を整備



児童・教職員など約20人が参加

実績とりまとめ

作業内容

剪定・伐採本数：14本
イベント：1回

参加者数

学内・学外：約20人
計：約20人

福光中部小学校「中部の森」整備事業

富山県南砺市立福光中部小学校



事業概要

目的は、明るい緑、安心して活動できる、子どもたちがはつらつと学ぶ学校づくりである。主な活動は以下のとおり。①樹木の手入れ、②植樹、③樹木の看板作り、④観察池のビオトープの整備、⑤たい肥作りのコンポスト作り。

事業成果

樹木の手入れを行うことにより、森が明るくなり、日光が差し込み、明るい中で活動できるようになった。看板設置により、生活科の探検で役立った。枯葉を自作のコンポストに入れることで森がすっきりした。約10年ぶりに観察池に水が流れるようになり、水生生物の観察に役立っている。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校の予算だけでは、これだけ大規模な整備はできない。今回、この事業を活用させていただき、思い切って整備することができた。
- ・予算の中で、剪定する樹木の選定、安価でできるビオトープの設置などを検討するのに苦労した。
- ・業者の都合により、剪定が年末にずれ込んだり、年を越したりしたため、今後は、早めに計画を立て、行動していきたい。

参加者の声

- ・実のなる木を植えた。早く食べてみたい。(植樹した児童)
- ・明るい森になり、ドングリやクリなどの木の実を発見しやすくなった。(生活科に参加した児童)
- ・池に水が流れていてびっくりした。早く生き物を観察したい。(理科の観察に来た児童)



子どもたちの手で植樹(左)、自作のコンポスト(右)



10年ぶりに水が流れた観察池



看板と植栽したイチジクと記念撮影



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：4本
剪定等本数：8本
水循環設備：一式

参加者数

学内：350人
学外：5人
計：355人

樹種

ヤマボウシ、シャクナゲ、イチジク、ザクロ

校庭および花だんの整備

石川県白山市立鳥越小学校



事業概要

児童の豊かな心の育成と地域に開かれた学校づくりのため、校舎前の緑化・環境整備を行った。主な活動は以下のとおり。①校舎周りの樹木の剪定、移植、②花壇の土壌改良と宿根性の植物を植栽、③シンボルツリー植樹、④児童が植物栽培を行うためのプランターと鉢を玄関前に設置。

事業成果

地域の生活道路に面する校舎まわりが明るくなり、学校に関心を寄せてくれる人が増えた。道路の向こう側の水田と校舎側の花々は美しい景観をつくっている。児童は自分で植えたプランターを毎日眺め、草花の成長や寄ってくる昆虫に喜んでいる。豊かな心の育成につながるだけでなく、学校前に人の目が集まることで、防犯効果も期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校周りが明るく、地域に好評である。水やりが大変だと思うので手伝える人を紹介したい。(学校運営協議会委員より)
- ・花を見ると元気が出る。(登下校見守り隊より)
- ・子どもが土を触るのは良いこと。続けてほしい。(保護者より)

参加者の声

- ・ポットで小さかった苗をプランターに植えたら、だんだん大きくなってうれしい。(児童)
- ・花が咲いて、ハチとチョウチョが遊びに来た。虫も花が好きなんだな。(児童)
- ・かわるがわる(宿根の)花が咲いてとてもきれい。花の名前を知ったらより関心が湧いた。(教員)



児童がプランターに植物を植える



校舎前の緑化・環境整備を実施



植樹されたハナミズキと看板



児童・教職員など83人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha

植付本数：1本

参加者数

学内：80人

学外：3人

計：83人

樹種

ハナミズキ

旭丘 四季を感じるプロジェクト

石川県白山市立旭丘小学校



事業概要

学校生活の中で、四季を感じる空間をデザインするために季節の花木を植栽し、理科・生活科・総合的な学習の時間に活用する。

事業成果

学校生活の中で、四季を感じる空間をデザインし、理科・生活科・総合的な学習の時間に活用することができ、有効であった。また、児童の安全のために校庭の樹木の剪定を

行うことができ、大変助かっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・完成式典の様子から、子どもたちに「ローソン緑の募金」事業の主旨が理解され、緑化や草花への関心が高まっていることが伺える。

参加者の声

- ・植樹後、栽培委員会が中心となり、全校児童に植樹の様子を周知した。みんな開花を楽しみにしている。



記念植樹



植樹されたドウダンツツジ



代表児童・教職員など21人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本

参加者数

学内：17人

学外：4人

計：21人

樹種

ドウダンツツジ、モクレン、ハナミズキ

春江東小学校学びの広場緑化事業

福井県坂井市立春江東小学校



事業概要

本校は17年目を迎え、子どもたちが主に理科や総合的な学習で活用するビオトープが水漏れするなど、学びの場が十分でない状態であった。そこで、本事業へ本校のビオトープ周辺(学びの広場)の緑化・整備などを要望するに至り、地域で愛育しているアーモンドなどの木の植樹を行った。

事業成果

令和5年11月7日に本校児童の代表6年生、教職員、県緑化推進委員会専務様、ローソン福井森田店店長様・福井支店店長補佐様、中部エリアサポート部参事様などを迎え、式典を行った。本事業で、学びの広場が緑化・整備されたことにより、授業はもちろんのこと、休み時間においても学習の場、又は憩いの場として活用できている。春以降にはメダカを中心とした生物の成長なども見られ、より充実した学習活動が展開されることが予想される。

事業をよく知る関係者の声

- この事業では、町の(株)ローソンのレジの近くにある募金箱に集められたお金が活用されている。家族、学校だけでなく、そのような地域の方の大きな善意によっても、学校の教育活動は支えられていることを子どもたちが理解する機会になったと考える。式典に参加した6年生は、特に、地域の人への感謝を忘れずにしたいという意見を持つことができたのが大きな収穫の一つである。

参加者の声

- すてきなビオトープを作っていただき、ありがたい。アーモンドやオリーブの木なども植えていただき、学校に緑が増えたのでうれしかった。機会があったら募金をしたい。
- ローソンの募金を活かした緑化事業の経験を踏まえて、私はこれからもSDGs活動に貢献したい。地域の水や田んぼをきれいにし、ケラを棲ませたい。



緑化・整備された「学びの広場」



理科や総合的な学習で活用されるビオトープ



代表児童・教職員など71人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：19本
下刈面積：約25㎡
ビオトープ面積：約44㎡
イベント：1回

参加者数

学内：65人
学外：6人
計：71人

樹種

アーモンド、オリーブ、サツキ、コキア

磯部小学校創立150周年記念緑化整備事業

福井県坂井市立磯部小学校



事業概要

本事業は、学校の環境緑化整備を通して、児童が環境教育に感心を持ち、自らより良い環境づくりや環境の保全に配慮した行動がとれる能力や態度を身に付けられることを目的に行った。主に、10年以上手入れのできていなかったビオトープ周りの樹木を剪定し、児童が安心して生き物とふれあえる環境を整え、有効活用できていなかった中庭を整備し、創立150周年記念樹の植樹を行った。

事業成果

樹木剪定後のビオトープは大変明るくなり、蜂の巣が撤去され、刺される心配もなくなった。児童が安心して生き物とふれあえる環境が整い、毎年清掃をしてくださっているPTAの皆様も喜んでいる。また、中庭には150周年記念樹も植樹することができ、創立150周年に対する機運も高まるとともに、児童らは、この木を何十年先までずっと大切にしていきたいという思いを持つことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・保護者代表として、完成式典に参加させていただいた。令和6年度に磯部小学校創立150周年の式典が開催されたが、本事業に携わった6年生の児童は在籍時に直接携われないのが保護者として残念であった。この緑化事業で、児童代表として6年生が記念樹の植樹に携われたことは良かったと感じている。これから児童の成長とともに、大きな木に成長するのが楽しみである。(PTA会長)

参加者の声

- ・緑の豊かさを守っていくことの大切さに気づけたので、この木をずっと守っていききたい。大きく育てほしい。
- ・みんなが知っているローソンが緑豊かな環境のために様々な活動をしてくださっていることを知ったので、自分も緑の募金をしようと思った。
- ・募金をしてくださった方に感謝して、150周年記念樹と一緒に、これからも大きく育てていきたい。(児童)



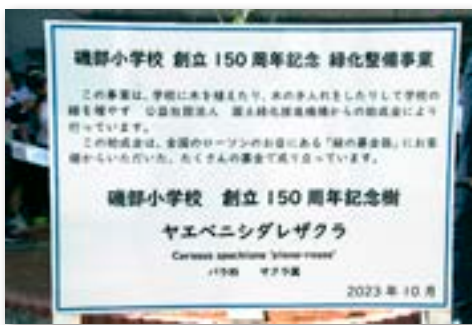
ビオトープ周りの樹木剪定を実施



ヤエベニシダレザクラを記念植樹



代表児童・教職員など79人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
 植付本数：1本
 高木剪定本数：21本
 低木剪定本数：4本
 イベント：1回

参加者数

学内：73人
 学外：6人
 計：79人

樹種

植樹：ヤエベニシダレザクラ
 剪定：マツ、エノキ、カイヅ
 カイブキ、モッコク、
 モミジほか

学校環境緑化モデル事業(桜の木の植え替え)

山梨県甲府市立新紺屋小学校



事業概要

本事業は、本校校地内の倒木などの危険性があるサクラの老木の伐採と新たなサクラの植樹の取り組みを創立150周年の記念事業として行った。植樹したサクラの木をこれからの学校の歴史を築くシンボリックな存在となるように成長を見守り、児童には植物を大事にする心を醸成したいと考えている。

事業成果

老木の伐採により、倒木などの危険がなくなり児童が安全に生活できる環境が整えられた。植樹記念式典を開催したことで、多くの人の助けにより植樹が実施できることを学ぶことができた。若木が植樹されたことで、児童が休み時間などを使って水やりを自発的に行うなど、自然を愛する心が育った。

事業をよく知る関係者の声

- ・老木の伐採、また新たな樹木の植樹を通して、学校の今までの長い歴史に思いを馳せる機会になった。植樹した若木を見ながら、これからどんな風に育っていくのか楽しみである。(参加児童)
- ・植樹記念式典を開催していただいたことで、多くの人の助けによって、植樹ができたということが実感でき、感謝する気持ちを持つことができた。(参加児童)

参加者の声

- ・老木を伐採していただいたおかげで、児童が安心して活動できる環境となった。植樹をしていただき、児童は積極的に水やりを行ったり、樹木の成長に関心を持つようになった。創立150周年にこの事業を行っていただいたことで、樹木を通して今までの歴史に思いを寄せたり、未来を楽しみする機会になった。(学校職員の声)



記念植樹



植樹記念式典の様子



代表児童・教職員など59人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
植付面積：15㎡
伐採本数：1本
伐根本数：1本
周辺整備工事：15㎡

参加者数

学内：53人
学外：6人
計：59人

樹種

ソメイヨシノ、ジンダイアケボノ

学校環境緑化モデル事業(学校敷地内の緑化：手入れ)

山梨県立高等支援学校桃花台学園（山梨県笛吹市）



事業概要

目的は、校内緑化の推進、学校環境を整える気持ちの醸成、学校創立10周年記念植樹として位置づけて長く愛される学校づくりの決意を全校で共有すること。主な活動は次のとおり。①サクラの剪定、②キンモクセイの記念植樹、③生徒職員、関係者による完成記念式典の実施。

事業成果

桜の木の剪定により、枯れ枝や駐車場まで伸びていた枝がなくなり、景観が良くなった。植樹したキンモクセイが創立10周年記念として残り、学校の歴史の1ページとなった。緑を育て守る活動を通して、生徒の自然を愛する精神を醸成し、環境教育の推進を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校創立10周年の記念事業と緑化推進という環境教育をうまく組合せることができた。
- ・ローソン緑の募金事業を知り、小さなことから大きな成果が生まれることが実感できた。
- ・ローソンとの今後のつながりにも期待が持てるような貴重な出会いとなった。

参加者の声

- ・はじめて植樹を体験し、良い思い出になった。キンモクセイや校内の樹木を大切にし、学校環境を整備していきたい。(高校3年生徒)
- ・創立10年を迎えた本校が次の10年に向けて、緑あふれる学校環境を大切にするのを植樹した樹木の成長とともに再認識していきたい。(校長)



サクラの枝剪定



完成記念式典の様子



キンモクセイを記念植樹



生徒・教職員など160人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
植付本数：3本
剪定本数：5本
イベント：1回

参加者数

学内：160人
計：160人

樹種

キンモクセイ

上松小学校 150 周年記念事業環境整備

長野県上松町立上松小学校



事業概要

創立 150 周年記念事業の一環として学校環境整備事業を実施した。主な活動は次のとおり。①危険木ソメイヨシノの伐採事業、②地域おこし協力隊による伐採木を活用した 150 周年記念品作成ワークショップ。

事業成果

危険木ソメイヨシノの伐採により、通学路を利用する子どもたちの安全確保だけでなく、生活道路として利用している地域住民の方々の安全確保につながった。地域おこし協力隊の方による 150 周年記念品作成ワークショップは、伐採木の有効活用でき、木の特性に触れる機会になるとともに、SDGsにつながる活動となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・被害が出る前に危険木を伐採し、子どもたち、地域住民の安全確保ができたことは良かった。
- ・敷地内には伐採を必要とする樹木もあり、計画的に整備作業を進めていく必要がある。
- ・ソメイヨシノが伐採され寂しさもある。今後、植樹をして、季節の移ろいを感じられるようにしたい。

参加者の声

- ・春には花を愛で、長年子どもたちの成長を見守り続けていたソメイヨシノが伐採されたことは寂しくもあるが、伐採木を活用し、150 周年記念のペン立てや看板を作成できたことは意義あるものだと思う。
- ・150 周年記念で作成したペン立てを大切にしていきたい。



150 周年記念品としてペン立てを作成



危険木を伐採し安全が確保された通学路



記念式典には児童・教職員など 186 人が参加



伐採木ソメイヨシノを活用した看板

実績とりまとめ

作業内容

危険木伐採本数：6 本
イベント：1 回

参加者数

学内：180 人
学外：6 人
計：186 人

学校環境緑化モデル事業(校地内の環境整備)

長野県長野盲学校(長野市)



事業概要

創立120周年を記念し、校内の緑の環境を整えた。主な活動は、樹木の手入れ(枝払い、剪定、伐採)と記念植樹(ウメ2本、ナツメ1本)を実施した。

事業成果

樹木の枝払いにより教室へ光が届き、学習環境が整った。児童生徒たちに親しみやすいように、校庭脇にウメとナツメを植樹した。樹木の成長を触って確認できる距離にあるのがありがたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・近隣に住宅が増え、秋になると、落ち葉で近隣に迷惑をかけてしまうことがある。適切に枝払いや伐採を行っていただき、良い環境になった。

参加者の声

- ・早く木が大きくなって、たくさんウメの実がとれたらジュースを作って飲みたい。
- ・教室の前の木の枝払いで教室が広がった。
- ・畑にあった大きな木がなくなり、広がった。



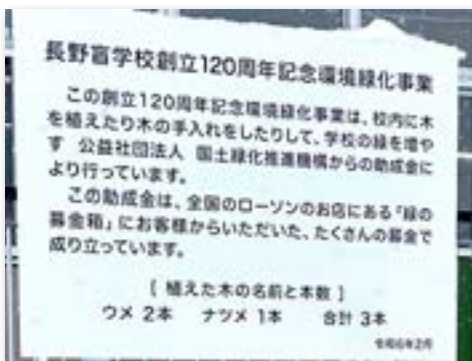
枝払いで教室の明るさがアップ



雪の中、記念植樹を実施



記念式典に参加の代表の皆さん



看板の文面

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3㎡
植付本数：3本
除伐面積：約0.5ha
イベント：1回

参加者数

学内：22人
学外：7人
計：29人

樹種

ウメ、ナツメ

学びの森づくり～観察林エリアを作る～

長野県伊那市立伊那西小学校



事業概要

本事業では、第2回目となる学校林の一部の皆伐を行った。目的は、学校林の一部を定期的に皆伐することで、森が再生していく過程での自然環境の変化や生き物を観察するとともに、伐採した木の使い方を考えたり、加工を通して、人と森とのつながりや、生き物の相互のつながり・バランスの大切さを学ぶための「わたしたちの林間づくり」活動を展開することである。

事業成果

70年目の森、5年目の森、今回の皆伐地との比較・観察の中で、萌芽した樹木の様子や植物相や生き物の変化を、教科の学習と関連付けて具体的に学び、日光の当たり方の違いや風通しや乾燥などに起因していることを理解できた。森の再生や生き物のつながりやその大切さについて、実感しながら学ぶことができた。また、伐採樹木の利用により森の命の循環を学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林の伐採を観察し、光環境を含めた自然環境が変わる事実を認識できた。また、伐採された木が、木材という形に変わっていく姿を見つめることで、景色の一つとしてしか認識されず、教科書の「文字」情報でしなかった「森林」「林業」が、目の前の経験として腑に落ち、資源であるとともに生態系としても重要であることを体得できた。

参加者の声

- ・学校を中心に地域の仲間が集まり、子どもたちのための学習環境を整える作業を通して、地域の連携や絆が生まれた。
- ・木を伐って、それを使って学校生活を充実させたり、自然科学を学んだりする伊那西小学校でしかできない魅力ある学習が素晴らしい。
- ・年輪を数えたり、木に抱きついたりする姿は、子どもたちが学校林の自然を愛している姿にほかならない。



アカマツの伐採後、年輪を数える



伐採木、枝の整理



製材後の木材



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：1 ha

イベント：1 回

参加者数

学内：88人

学外：70人

計：158人

樹種

伐採：コナラ、ウワミズザクラ、サワラ、クリ、カエデほか

しろやまこみち周辺整備事業

岐阜県海津市立城山小学校



事業概要

児童が学校周辺の自然に愛着や親しみを持って学習に取り組むために、学校西の遊歩道「しろやまこみち」の学習環境を整備した。また、数年にわたる遊歩道整備の経緯などを共有していくため、木製看板を設置した。

事業成果

城山小学校は小高い山の上に立ち、建物の周りは森に囲まれているが、これまではうっそうとした森が茂っているだけで、散策できる状態ではなかった。しかし、この事業を通して遊歩道が整備されたことで、森を訪れる機会が増え、樹木について意欲的に学ぼうとする姿が見られるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- この学校は森林に囲まれている。3年生は総合的な学習の時間において、木の名前や特性などを学び、2年生に引き継いでいる。事業を通してより林道が整備され、学びやすい環境になったことは、大変ありがたい。(3年生学年主任)

参加者の声

- 葉の名前や木の名前など、いろいろと知ることができた。木のチップが敷き詰められ、前より歩きやすく、木の観察がしやすくなった。これからも「しろやまこみち」を学校の宝物として大切にしていきたい。(児童代表の言葉)



学校西の遊歩道「しろやまこみち」入口で完成式典



テープカットを実施



児童・教職員など45人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

整備面積：180㎡
看板設置：1基
イベント：1回

参加者数

学内：41人
学外：4人
計：45人

お茶の木から学ぶSDGs

岐阜県本巣市立外山小学校



事業概要

外山小学校の校庭の緑化を図ろうと本事業を実施した。主な活動としては、同市根尾で茶の木の栽培をされていた生産者からチャノキを60本寄贈され、運動場の横へ移植した。

事業成果

地域の自然を取り入れた体験学習を幅広く実施している本校にとって、身近な飲み物であるお茶の木が育っていくことは非常に楽しみである。自然への興味が増すきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・長年、チャノキを栽培してきたが、引退することを機に小学校へ寄贈することにした。しっかりとした株になるよう、今後も子どもたちと一緒に世話をしていきたい。(茶の木寄贈者)

参加者の声

- ・茶葉が摘めるようになる日が楽しみだ。子どもたちが卒業後に集まった時に、一緒にお茶を飲めたら素敵だ。(本校校長)
- ・今まで大事に育てられてきた木を、今後僕たちが大切に育てていきたい。(6年児童)



チャノキを寄贈いただいた茶農家の方



児童・教職員など49人が参加



チャノキを記念植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：30㎡
植付本数：60本
イベント：1回

参加者数

学内：40人
学外：9人
計：49人

樹種

チャノキ

創立150年記念緑化事業

静岡県焼津市立小川小学校



事業概要

本校は令和5年度に創立150年の節目を迎えた。節目となる年に、子どもたちが清々しい気持ちで150年を迎えられるよう、学校の緑地化整備を推進していきたいと考え本事業を実施した。特に、学校のシンボルである「長寿松」の周辺を整備することで、創立150年を祝う全校児童や職員の士気を高めるとともに、愛校心を醸成したい。

事業成果

今まで予算や人的余裕がなく、年に数回除草をしながら対応してきた。本事業できれいに整備されたことで、これまで以上に児童が足を運ぶ気持ちの良い場所となった。また、児童が中心となって開催する「創立150年記念集会」でも話題にすることで、本校自慢のスペースとしての共通意識がさらに高まることであろう。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校の代表として、来年度からのリーダー意識を育てるため、あえて高学年ではなく4年生が式典に参加した。子どもたちは、後日、昼の放送などで式典の様子や感謝の気持ちを4年生なりに発信し、学校全体に本事業が浸透した。教育的にも非常に効果が高かった。

参加者の声

- ・僕たちの学校に寄付をしてくれたお陰で、長寿松の周りがとてもきれいになった。
- ・150年続いている小川小を、これからももっといい学校にしていきたい。
- ・募金やボランティアなど、自分も人のために役に立つ行動をしていきたい。ローソンやグリーンバンクの方が遠くから来てくれてうれしかった。



長寿松周辺の整備前



整備後



整備された池



代表児童・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：47㎡

植付本数：172株

参加者数

学内：40人

学外：4人

計：44人

樹種

サツキ、ツツジ、ドウダンツツジ

ビオトープ周辺の環境整備事業

静岡県静岡市立田町小学校



事業概要

2005年に地域と協力し造ったビオトープがある。18年という月日が経ち、その当時のことを知る人は少なくなっている。そこで、3年生がビオトープの魅力を地域へ発信し、地域の方も憩える場所にするため、本事業では、情報発信やビオトープに棲む生物の保護、生物が集まる場所になるように植樹などを行った。

事業成果

研究発表会において市内各校へ本事業の取り組みを発信した。また、来年度入学する園児に対し、本校児童が静岡商業高校の協力のもと、ビオトープなどの魅力を発信した。さらに、3年生全員で作製した看板を学校周辺に設置したことにより、継続的に地域へ本校のビオトープについて発信し続けることができる。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域と学校が協力して造ったビオトープが認知されていないため、環境教育の推進という意味でも、再度広く発信してほしいと感じていた。ビオトープの存在を地域へ知らせることで、地域住民がビオトープを利用したり、環境整備に関わることなど、学校との関わりが増えるのではないかと感じる。

参加者の声

- ・子どもたちが1年間を通して、「ビオトープの魅力を地域に広く発信する」というテーマで様々な活動を行ってきたことが分かった。今回の取り組みがきっかけとなり、様々な人がビオトープに関心をもち、さらに、学校と地域が共に環境整備を進め、交流の場所として活用できるとより良いと感じた。



2005年に造成されたビオトープを子どもたちに説明



ビオトープで生き物観察



記念植樹



児童・教職員など110人が参加

実績とりまとめ

作業内容

保護網設置
植樹名前札設置
ビオトープPR看板：1基
イベント：1回

参加者数

学内：100人
学外：10人
計：110人

樹種

オリーブ、ヤマモモ、ブルーベリーほか

花壇の整備 樹木の剪定事業

静岡県立浜松聴覚特別支援学校（静岡県浜松市）



事業概要

本事業では、創立100周年を記念して、記念樹を植え、記念花壇づくりを行った。昇降口にきれいな花壇をつくることで、100周年の記念とし、自然豊かな学校に誇りを持つことにつなげたい。また、マツクイムシで倒壊のおそれがあるクロマツの伐採と剪定を行い、運動場の安心・安全な環境を整えた。

事業成果

児童が中心となって、花の選定やレイアウトを考え、全校で花壇をつくったことで、創立100周年をお祝いする気持ちが高まった。また、マツクイムシで茶色く枯れた特大木のクロマツを伐採したことで、安心して運動場で活動できるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・昇降口に面した場所の花壇を、子どもたちが自分で花を植えて作ったことで、喜びと自信を得ることができ、100周年記念の一つとして、良い活動ができた。記念樹として植えたハナミズキが花を咲かせ、大きく成長していく様子を見るたびに、100周年記念のことを思い出すことが期待される。マツクイムシの被害が、他のクロマツにも広がらないように願っている。

参加者の声

- ・花壇のお花を考えた。みんなで植えてきれいな花壇ができてうれしい。(小学部児童)
- ・100周年の記念樹のハナミズキが、春に花を咲かせることが楽しみ。卒業後も、記念樹が残るのがうれしい。(中学部生徒)



お花の苗を植栽



児童が計画して作った百周年記念花壇



ハナミズキを記念植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
花壇面積：10㎡
花の苗：70株
伐採本数：1本
剪定本数：2本

参加者数

学内：41人
学外：3人
計：44人

樹種

植樹：ハナミズキ
伐採・剪定：クロマツ

樹木剪定・ガーデニング整備事業

静岡県南の丘学園袋井市立袋井南中学校



事業概要

学校北側道路に面した歩道の周辺は、除草しても雑草がすぐに生え、花を植えても生育が難しくメンテナンスが大変であり、地域の景観も損ねていた。そこで、歩道を通る生徒や地域住民にとって快適な環境とすることを目指し、本事業では、歩道脇のスペースの土壌改良を行い、ヒラドツツジの植樹を行った。

事業成果

完成式典の生徒会長の言葉では、次のようなメッセージが聞かれた。「SDGsの達成目標である2030年が間近になってきましたが、南中でも、エコキャップの回収をしたり、資源回収を行ったりしています。私たちも3Rを意識したり、緑の募金に募金したりするなど、地球の環境を守るための行動を実践していきたいです。」生徒のSDGsや環境への意識は高まってきている。

事業をよく知る関係者の声

- ・これまで雑草しか生えてこなかった歩道脇が、ツツジを植樹したことで、美しい花が咲き、地域や学校に季節の訪れを知らせてくれるようになるだろう。課題としては、長期休業期間の水やりなどのメンテナンスが必要である。また、植樹範囲は限定的なので、予算を考慮しながら少しずつ植樹をしてツツジの範囲を広げられると良い。

参加者の声

- ・雑草がなくなり、きれいになった。春先にツツジの花が咲くのが楽しみ。(生徒)
- ・地域の景観が向上して大変良い。春先にどんな色のツツジの花が咲くのかを今から楽しみにしている。今後も、毎年少しずつツツジの花を植樹して、その範囲を広げられると良い。(地域住民)



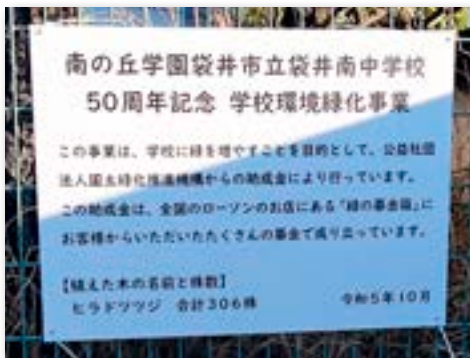
生徒・教職員など521人が参加



完成式典で記念の鋤入れ



学校北側道路に面した歩道脇にヒラドツツジを植栽



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：200㎡
植付本数：306本
イベント：1回

参加者数

学内：512人
学外：9人
計：521人

樹種

ヒラドツツジ

つなげよう 緑と生命プロジェクト～くすくんと共に～

愛知県岡崎市立梅園小学校



事業概要

本校には、大正天皇即位記念として植樹されたクスノキ(くすくん)を始めとして、樹齢100年を超える古木が何本もあり、名前が付けられている。開校150周年記念事業として、梅園学区防災井戸が設置され、子どもの提案により井戸水が流れ込む池も造成された。ビオトープや植物とのふれあい空間をつくることで、自然環境の大切に加え、緑と生命をつなぐことを楽しく学ぶことができた。

事業成果

井戸水が流れ込む池をビオトープとして活用するために、子どもたちは地域の河川である「伊賀川」の自然環境を校内に再現して守りたいと考えた。水の流れが必要だと考え小川を造成し、水の循環による浄化作用へも広がった。周辺に看板や実のなる樹木を植樹したことで、植物との関係にもつなげることが期待される。ミカン木の剪定やイロハカエデの活性化、樹木環境の整備への関心も期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・校地内にはクスノキの大木が多く、その下の空間が子どもたちの安らぎの場となっている。そこにアジサイが植えられ、花と共に低木にも関心が向けられる。また、ムシムシランド内にもシマトネリコが植栽され、今後カブトムシなどが自然に繁殖できる環境が整うことも考えられる。ビオトープ「伊賀っこ」の周辺がやや密な植栽となっているため、再整備が必要である。

参加者の声

- ・ビオトープ「伊賀っこ」の命名を記念して、常緑ヤマボウシを植栽した。ヤマボウシは春に白い花を咲かせ、秋には赤い果実を実らせ、甘く食べられるそうなので楽しみ。野鳥も来てくれるのではないかと、これも楽しみ。
- ・ビオトープの小川づくりは、土を運んだりブロックを積み上げたり大変だった。小川に水が流れた時には感動した。



子どもたちの手で緑化活動



ビオトープ「伊賀っこ」周辺の整備を実施



児童・教職員など750人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
植付本数：105本
イベント：2回

参加者数

学内：750人
計：750人

樹種

常緑ヤマボウシ、ソメイヨシノ、アジサイ、シマトネリコ、ミカン

桜木小生き物の森復活大作戦

愛知県豊川市立桜木小学校



事業概要

昔「穂ノ原」と言われていた桜木小周辺。その自然環境を再現したビオトープ「桜木小生き物の森」は、整備後20年以上経過し、劣化が目立っていた。今後最低でも10年はビオトープを持続できるように、本事業では、劣化が激しい「さくらぎ川」「さくらぎ池」の改修工事を行った。「さくらぎ川」は、児童が裸足で水とふれあえるように護岸を整備し、授業などで活用できるようにした。

事業成果

コンクリート片が散乱するなど、これまで老朽化により、低学年は教員引率でしか立ち入れなかった「桜木小生き物の森」が、休み時間に気軽に立ち入れられるようになった。生活科の「季節みつけ」の単元や、3年生理科「生き物探し」の単元などで積極的に活用できることが考えられる。また、これを機に、環境委員会を中心に「持続的に森づくり」の活動を推進していく予定である。

事業をよく知る関係者の声

- ・改修により、段違いに子どもたちが「桜木小生き物の森」に訪れるようになった。今後も木道の整備などをしていき、さらに子どもたちが自然と共生できる場づくりをしていく予定である。これを機に、桜木小学校6年間の教育課程に「生き物の森」を位置づけていくのかを精査し、より効果的に子どもたちの環境学習に生かせるようにしていきたい。(担当・教務主任)

参加者の声

- ・PTAも毎年生き物の森維持活動として、年に1回奉仕作業を行っている。令和5年度は200人以上の親子が参加。そのため、私たちにとってもなじみ深い場所である。鳥がたくさん集い、そしてカブトムシやセミなどの昆虫もたくさん見つけることができる「桜木小生き物の森」の改修された姿を見に、子どもたちとぜひ訪れたいと思う。(令和5年度PTA会長)



校内ビオトープ「生き物の森内さくらぎ川・さくらぎ池」の護岸改修



護岸改修後の池で遊ぶ子どもたち



完成式典の様子



看板を設置(写真中央)

実績とりまとめ

作業内容

校内ビオトープ護岸改修

参加者数

学内：365人(式典：6人)

学外：12人

計：377人(式典：18人)

名張小学校百年の森整備事業

三重県名張市立名張小学校



事業概要

本校の創立以来の歴史を刻む「100年の森」は、約50年前に整備されたが、長い年月の間に荒れてしまい、立ち入ることが難しい状況となっていた。そのため、本事業では、森を美しく整備し、児童や地域の方が気軽に安全に立ち入ることができ、自然に親しむことができる森となるよう、以下を実施した。①校庭にサクラを植樹、②大木になった枝の剪定。

事業成果

今回の整備により、ケヤキの高木の枝払・剪定・抜き伐り3本、イチョウの高木の枝払・剪定1本、乱雑及び危険となったカイヅカイブキの伐採、カワツザクラ1本、カンザンザクラ1本、セイヨウシャクナゲ1本、アベリア10本の植樹などを行った。この結果、児童や地域の方が気軽に

安全に立ち入ることができる「100年の森」に生まれ変わり、自然とふれあえるすばらしい森となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の整備により、危険だった森は、「快適園地」としての「100年の森」に生まれ変わることができた。各種のサクラやほかの樹木も時期をずらして咲いたり楽しんだりできるようになり、開かれた学校を目指す上でも、地域の者が気軽に立ち入れるような、そして自然とふれあえるような森になった。この整備を機に、継続した管理の気運も高まるだろう。(70代男性)

参加者の声

- ・記念式典に参加したが、森に入ることができるようになってうれしい。きれいになった森で鬼ごっこをしたい。(11歳男子児童)
- ・「100年の森」は名張小学校の宝。わたしたちも入れるようになってとてもうれしい。(11歳女子児童)
- ・これからも「100年の森」に親しんで行くことができるようになってとてもうれしい。(10歳女子児童)



セイヨウシャクナゲを植樹



大きく繁ったケヤキやイチョウを剪定



児童・教職員など95人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積（整備面積）：
約300㎡

植付本数：約13本

イベント：1回

参加者数

学内：75人

学外：20人

計：95人

樹種

カワツザクラ、カンザンザクラ、セイヨウシャクナゲ、アベリア

学校環境緑化モデル事業

三重県鈴鹿市立若松小学校



事業概要

校内樹木の安全管理と環境美化を目的に、校庭のマツの木の新定と、生活科などの学習活動で活用できるクヌギの木の新定を行った。学校のシンボルツリーともいえる歴史あるマツの木は、児童のほか地域の方からも愛着をもって見守られており、新しく植えたクヌギの成長とともに大切にしていくことを、児童会が中心となって呼びかけた。

事業成果

児童が、学校のマツの木の新定作業を目にしたり、新定されたクヌギの木や看板を見たりして、SDGsに関心をもつきっかけをつくることができた。また、6年生は卒業の記念として、新定の式典に参加した。毎年3学期には森林の学習を行っており、つながりをもたせた学習を行うことができた。今後、どのように活動を引継いでいくか、6年生を中心に話し合いを進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域のボランティアの方に、校庭の草や樹木の新定、新定に協力をしていただいているが、マツの手入れは大掛かりで手を入れることができていなかった。今回一度に4本の剪定をしていただき、たいへんありがたかった。子どもの安全が守られ、安心して校庭で遊びや学習活動ができる環境が整備された。(本校の地域コーディネーター)

参加者の声

- ・本校は海に近く、海岸清掃などの取り組みを通してSDGsにつながる活動を地域ぐるみで行っている。今回、海沿いには根付きにくいといわれる山の木(クヌギ)を新定するにあたり、樹木の特性や育て方などを調べて子どもたちと成長を見守ることで、森林を守ることへも関心を広げていきたい。卒業生の児童にとっても、記念のクヌギがどんぐりを実らせる日を楽しみにしていることと思う。(教職員)



クヌギを新定



シンボルツリーのマツの木を新定



完成式典の様子



児童・教職員など54人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.005ha
植付本数：5本
下刈面積：0ha
除伐面積：0.01ha
イベント：1回

参加者数

学内：48人
学外：6人
計：54人

樹種

クヌギ

水口小学校環境整備事業

滋賀県甲賀市立水口小学校



事業概要

創立150周年を記念して、緑環境の整備を行った。主な活動は、大きくなり過ぎ、危険であった木や枯枝などの剪定や不要木の伐採、植樹を実施。

事業成果

剪定などにより危険因子が取り除かれ、安心して学校活動ができるようになった。併せて、植樹などにより緑化意識の向上につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 樹木の剪定などにより教室が明るくなった。
- ・ 児童が植物を育てることに関心を持つ機会となった。

参加者の声

- ・ 以前は、無秩序に枝が伸びるなどして景観などが思わしくなかったが、剪定などにより学校と自然の調和がとれるようになった。



完成式典の様子



ヤブツバキを植樹



代表児童・教職員など103人が参加



記念樹の隣に看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
植付本数：1本
剪定本数：17本
イベント：1回

参加者数

学内：96人
学外：7人
計：103人

樹種

ヤブツバキ

稲枝西小学校緑化リニューアル大作戦

滋賀県彦根市立稲枝西小学校



事業概要

創立115周年を迎え、校地内の自然環境・学習環境を整えるため、枝葉が伸びすぎたり、害虫が集まり安全面で不安がある樹木の剪定・伐採と樹木の植栽を行った。

事業成果

学校環境が整い、児童が安全に学校活動を行えるようになった。併せて、植樹などを実施したことにより緑化意識の向上につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・校庭で安心して活動できるようになった。植栽した樹木の花が咲き、実になることを楽しみにしている。

参加者の声

- ・景観面と安全面の不安要素が取り除かれ、学校環境が整った。



完成式典の様子



ツバキ・マンリョウ・アジサイを植樹



児童・教職員など28人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：60㎡
植付本数：33本
剪定本数：15本
伐採本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：23人
学外：5人
計：28人

樹種

ツバキ、マンリョウ、アジサイ

学校環境緑化モデル事業

京都府 学校法人 池内学園池内幼稚園



事業概要

年々気温が上昇する昨今、熱中症対策ではテントも活用するが、園庭には樹木が少なく、木陰も少ない。また、豊かな人間性を培う教育の現場において、樹木とのふれあいや四季折々の変化を見せることを大切にしたいことから、本事業では、木陰を作り出すことに適した樹木や実になる樹木を選定し、植樹を行った。併せて、園児が活動する際に危険な状況にあった樹木の剪定を行った。

事業成果

植樹後、水やりの手助けする園児が見られ、植物が育つためには水が必要だということを感じ取っている。「お水あげよう」などの優しい声かけもあり、樹木と共存していく上での感性が育ちつつある。樹木が成長していくことに関心を持つ園児も多く、実のなることを心待ちにしている。樹木の成長とともにテントとは違う木陰の心地良さや花や実に関心が高まることが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・園に木陰が少なく暑さ対策に苦勞していたことや、樹木の木陰に遊びのコーナーを設置すると園児は喜んで参加していた。木陰が作り出す環境が増えることは、単に熱中症対策だけでなく、樹木の特性を生かした保育の質の向上につながる。今後も補助金などを活用しながら、樹木を増やし、樹木の良い状態を維持し、「わくわくの森事業」を継続発展させていくことを切に期待している。

参加者の声

・事業で植樹させていただいた木々は、子どもたちが日々ふれあうことができる形で園に長年にわたり残っていく。本園を卒園して何年か後に訪れた者も懐かしむことができる。環境緑化モデル事業は価値の高い取り組みだ。

・園児は「早く実がなってほしい」「木が増えてうれしい」「どんな花が咲くのかな」と楽しみにしている。



「わくわくの森」の記念式典の様子



ネムノキやフジなどを記念植樹



代表児童・教職員など57人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
植付本数：7本
除伐面積：30㎡

参加者数

学内：52人
学外：5人
計：57人

樹種

アラカシ、ネムノキ、シラカシ、ヤマボウシ、ジュンペリ、フジ

永寿小 野外活動とSDGs活動

大阪府貝塚市立永寿小学校



事業概要

林内で安全かつ効果的な野外活動・SDGs活動を推進するために、間伐を実施し、階段と手すりを設置した。整備された林では、木を使ったクラフトやキーホルダー作り、シイタケ栽培などを行い、発想豊かな子を育成するための体験学習を実施。林の腐葉土と乗馬クラブからいただく馬糞から作った肥料を利用し、地域の方との野菜づくりにするなどSDGsにおける取り組みを行う。

事業成果

子どもたちは、学習中及び休み時間を利用して、担任と整備された林に入り、理科の学習で木々の観察、昆虫の観察などを行っている。また、永寿フェスティバルなどのイベントに向けて伐採した木の丸太切り体験や木々を使ったクラフト作りなどを企画している。今後も各学年の体験学習において、整備された林を活用するいろいろな取り組みを発想豊かに考えるきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・下刈りによって階段や手すり作り、木の伐採の作業がしやすく、間伐の本数も適度であった。より安全に子どもたちが活動や学習ができるように道路側にフェンスを設置したい。シイタケ栽培、木を伐る体験、近隣の保、幼、認定子ども園の園児を招待して身近に昆虫を感じてもらえればと考えている。林の落ち葉を使った腐葉土で畑の作物を育てるSDGs活動も継続していきたい。

参加者の声

- ・林の中に入ってたくさんの虫を見つけた。自分の手でカブトムシを捕りたい。林の中は、陰が多くて運動場よりひんやりして涼しかった。(子ども)
- ・整地された林で子どもたちが楽しく体験学習をする姿を見て、子どもたちの意欲関心を感じた。地域の方にも春の林のサクラを見に来てもらい、「永寿の森」が、地域の方と学校の交流の場になればうれしい。(大人)



階段には手すりを設置



ヤマモミジを植樹



整備された「永寿の森」



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
下刈面積：0.3ha
除伐面積：0.3ha
イベント：1回

参加者数

学内：62人
学外：2人
計：64人

樹種

ヤマモミジ

用和小学校創立 150 周年記念緑化事業

大阪府八尾市立用和小学校



事業概要

創立 150 周年を記念して、学校敷地を緑化し、児童の教育環境を整えることを目的として、ハナミズキとサクラの記念植樹を行った。

事業成果

児童会による創立 150 周年記念植樹を 2 回行い、記念式典で全児童に紹介することで児童の記憶に深く残った。植樹に関わった児童たちは学校前を通って樹木を見るたびに、一生の思い出となる可能性が高い。また、剪定により教育環境が改善され、特に南校舎に日が差したことで教室が明るく温かくなった。児童の学校生活や学習環境の改善につなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・校門付近に植樹したことで、児童が毎日目にするのが

できて良かった。

- ・校門付近がきれいになって明るくなった。植樹だけではなくて周りの環境も整えられた。
- ・選定業者がとても丁寧に仕事をしていた。
- ・150 周年記念で形に残るものができて有意義である。
- ・子どもと大人と一緒に作業できたことが良かった。

参加者の声

- ・校門付近がきれいになって明るくなった。
- ・教室が明るくなってうれしい。(北館で学習する児童)
- ・教室が温かくなってうれしい。(北館で学習する児童)
- ・今までは 1 組しか明るくなかったけれども、2 年生の教室がすべて明るくなった。(北館で学習する児童)
- ・大人になっても学校前を通るたびにサクラを目にするので、そのたびに必ず植樹の事を思い出す。(児童会役員)



完成式典の様子



代表児童・教職員など 35 人が参加



ハナミズキを植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：12㎡
植付本数：2 本
下刈面積：1 ha
除伐面積：1 ha
イベント：2 回

参加者数

学内：30 人
学外：5 人
計：35 人

樹種

ハナミズキ、サクラ

柳本小学校創立 150 周年記念緑化事業

奈良県天理市立柳本小学校



事業概要

児童の緑化への関心を高め、環境問題の解決を目指すため、藤棚を作成し、ベンチやアルミ缶入れを設置した。さらに、藤棚の下で地域の方と子どもたちが集える場所をつくり、子どもたちの活動と地域の活動が一緒になって環境問題の解決を目指す地域ステーションとして活用する。

事業成果

新聞などにも掲載していただいたおかげで、「地域の方からも空き缶を持っていきましょうか」というお電話も数件いただいた。本事業を通し、環境問題に対し意識の変化をもたらすとともに普段の暮らしの中でできることを考えるきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今はまだ苗木の状態だが、フジが成長し心地良い日陰をつくり、みんなの憩いの場となることを望む。また今まで雑草畑であったところに90本のサツキを植えられたので、春になり鮮やかな花が咲きそろうことが楽しみである。この場所が地域と子どもの交流の場になることを望んでいる。

参加者の声

- ・創立150周年の記念すべき年に卒業記念樹として校章のモチーフとなっているサクラの木を植えた。サクラの木も自分たちの成長とともに大きく育っていく。柳本小学校を卒業しても、自分たちの心の拠り所としてずっとサクラの成長を見守っていききたい。



完成式典でのテープカット



サクラほかを植樹



完成式典の様子



代表児童・教職員など119人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：70ha
植付本数：92本
下刈面積：70ha
イベント：1回

参加者数

学内：97人
学外：22人
計：119人

樹種

フジ、サクラ、サツキ

みんなのひろば 緑化事業 in 櫛本小学校

奈良県天理市立櫛本小学校



事業概要

本校は、地域と共にある学校づくりに取り組み、児童の登下校の見守りや放課後学習の支援をしていただいたり、月1回「櫛本みんなのひろば」として、Earth・Sky・図書室を地域に開放し、小学校が地域のプラットフォームとなるように活動を進めている。本事業では、令和4年に創立150周年を迎えた記念として、児童や地域の方が通る校門付近を中心に整備し、樹木の剪定と植樹を実施した。

事業成果

本事業で木々を植樹していただいて、児童がとても喜んでいる。式典に参加した低学年児童の成長と共に、西門前のサクラ・体育館前花壇のヒラドツツジも生長し続けてほしい。児童は自分たちが大きくなるように、木も元気に大きくなってほしい、卒業することにはどんなに大きくなっているのかと楽しみにしている。式典や植樹に参加した児童は、その思いを俳句や川柳であらわした。

事業をよく知る関係者の声

・校庭には、以前「学習園」があった。いろいろな樹木が植えられていたが、校舎新設や体育館移築に伴い、サクラが伐採され、進級や入学のシンボルとなるサクラが少なく残念に思っていた。今回、正門付近に2本のサクラが植樹され、とてもうれしく思っている。また、樹木を丁寧に剪定していただいたり、切り株を抜いていただいたりと学校の環境を整えていただき、とてもありがたい。

参加者の声

・体育館の移築に伴い、サクラの木が減ってしまったが、今回の事業で、2本のサクラが正門（西門）に植樹され、とてもうれしい。また、体育館前の花壇にヒラドツツジが植樹され、緑化環境が整ったように思う。4月には、正門のサクラが進級した児童や新1年生を迎えてくれると思う。櫛本小学校のシンボルとなることを期待している。



校門付近を整備



サクラ、ヒラドツツジを植樹



完成式典の様子



植樹した近くに看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.001ha
植付本数：52本
下刈面積：0.001ha
イベント：1回

参加者数

学内：101人
学外：11人
計：112人

樹種

サクラ、ヒラドツツジ

環境教育フィールド整備

和歌山県和歌山市立雑賀小学校



事業概要

児童が、今まで以上に自然に親しみ、楽しみながら自然を守る学習の場を整備することを目的に、川魚の飼育池の改良と校庭への苗木の植栽を行った。

事業成果

整備前も野菜の苗を周辺に植えたり、児童にとって親しみのあるエリアだったが、今回飼育池を改良し、池で川の生き物を育てられるようになったことで、児童にとって自然学習を行う環境を整備することができた。飼育池で生き物の観察を行ったり、植栽した苗木のお世話をする中で自然を大切にしようという意識が育っている。

事業をよく知る関係者の声

- ・雑賀小学校は、和歌山市の研究指定を受け生活科・社会科の研究を行っており、全学級において生活科・社会科・総合的な学習の時間の授業を公開している。今後も先進的な学習に取り組み、本事業で整備した飼育池での淡水魚の飼育や植栽した苗木の育成を子どもたちで行うように考えている。活動を通して生態を学ぶとともに自然を大切にする意識の醸成につながる良い機会である。

参加者の声

- ・飼育池で生き物を飼育できるようになって良かった。
- ・苗木の花が咲くのが楽しみ。
- ・児童と一緒に自然に親しむ場所を整備できて良かった。



川魚の飼育池の改良



完成式典の様子



児童・教職員など38人が参加



記念植樹の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.004ha
植付本数：30本
イベント：1回

参加者数

学内：32人
学外：6人
計：38人

樹種

ウバメガシ、サツキ、アジサイ

ネイチャールーム環境改善大作戦

和歌山県和歌山市立有功東小学校



事業概要

児童が、今まで以上に自然に親しみ、自然環境の大切さについて考えたり、学んだりする機会を増やすことを目的として、自然観察エリアの環境整備を行った。主に、樹木の伐採、枝打ち、池の整備などを実施した。

事業成果

整備前も特に低学年にとっては、親しみ深いエリアだったが、今回、池の中に飛び石を設置するなどの環境整備により、観察もしやすくなり、人気となっている。池にどのような植物や生き物を入れるのかを、児童が自主的に調べ、計画するようにしていることで、自分たちの森という意識が育っている。

事業をよく知る関係者の声

- ・6年生の児童の「有功地域の生態系の中の一つとして機能できるような場所にしたい。」という願いから、本事業に応募し、整備を行った。6年生の児童も参加して、整備を行ったことが良かった。今後は現在の状態を維持していくことが課題である。児童を巻き込んで、このエリアを守り、維持していきたいと考えている。

参加者の声

- ・児童が一緒になって、環境整備できたことが良かった。
- ・整備前とは見違えるくらい環境が整った。
- ・コンクリートの池を粘土でくるんだことで、より自然に近づいたビオトープができた。



児童も一緒に作業



大きくなり過ぎた木を伐採



全景（看板は左奥、ビオトープは中央奥）



記念式典（前に置いてあるのは記念植樹用苗木）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.0006ha
植付本数：2本
除伐面積：0.01ha
イベント：1回

参加者数

学内：29人
学外：9人
計：38人

樹種

シラカシ、カキノキ

学校環境緑化モデル事業

鳥取県米子市立湊山中学校



事業概要

湊山中学校の開校時に植えられ、大きくなりすぎた樹木を伐採・剪定し、明るく魅力のある学びの場とする。生徒会と地域が協力して樹木を管理することで、生徒が樹木や花を大切にする心を育成し、地域とのつながりをより深めていく。

事業成果

明るくなった学習環境を維持し、地域住民にも親しまれる、安心安全で持続可能な環境づくりと地域との関わりについて考え取り組んでいく、良い機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・長年親しまれていた学校の木々が大きくなりすぎ、安全性に懸念を抱く声も多かったが、本事業で整備でき、安心して生活できる環境となった。生徒が大人になってからも親しまれ、自慢の緑の多い学校となつてほしい。

参加者の声

- ・学校の風景が変わり、少し寂しい気持ちもするが、学校が明るくなった。これから、生徒会執行部や委員会活動で、明るく美しい、緑あふれる学校をつくっていきたい。自分が大人になったとき、子どもたちに誇れる学校にしていきたい。



大きくなり過ぎた木の枝剪定



整備の様子



看板の記念設置



設置された看板

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：125㎡

イベント：1回

参加者数

学内：20人

学外：4人

計：24人

樹種

ヒマラヤスギ、トウカエデ、ニオイヒバ、スダジイ、クスノキ

学校環境緑化モデル事業

鳥取県琴浦町立八橋小学校



事業概要

児童が木や草花に親しみながら学校生活を送れるように学校の緑化環境の整備を進めた。主な活動は、木の枝打ちや伐採、藤棚の修理、キンモクセイ・ギンモクセイの植樹を行った。

事業成果

木の枝打ちや伐採、藤棚の修理を行うなど、環境整備を進めたことによって、学級園や音楽室などが明るく風通しが良くなり、適切な使用ができるとともに、自然に親しみながら学習できるようになった。キンモクセイ・ギンモクセイの植樹を行ったことにより、児童の樹木への興味が増し、開花を楽しみにする気持ちを持つことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・樹木の多い学校であるが、成長しすぎた木や倒木の危険のある木などを適切に枝払いや伐採をしたことで、日当たりや風通しが良くなり、安全で快適な環境となった。
- ・藤棚の修理やキンモクセイ、ギンモクセイの植樹により、児童が普段身近な校庭で、様々な自然に親しみを持つことができると感じる。

参加者の声

- ・木や木の枝を切って、周りの景色がよく見えるようになり、音楽室が明るくなった。学級園にも日がよく当たり、たくさん収穫ができそうで、うれしい。
- ・キンモクセイとギンモクセイの植樹をしたが、来年の秋に花が咲くことを知り、6年生なので、卒業してしまうが来年の秋に花を見に来たい。



キンモクセイ、ギンモクセイを植樹



枝打ちを行ったクヌギ



伐採後



藤棚の修理

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
除伐面積：100㎡
枝打本数：1本
伐採本数：4本
イベント：1回

参加者数

6年児童：30人

樹種

植樹：キンモクセイ、ギンモクセイ
枝打：クヌギ
伐採：クスノキ、ユリノキ、サクラ

中西小学校校舎・校庭完成記念事業

島根県益田市立中西小学校



事業概要

およそ3か年におよぶ新校舎と校庭整備の工事に伴い少なくなった学校の緑を増やすため、サツキツツジとサクラを校庭周りに植える。また、児童・職員・保護者・地域住民が集うことのできる憩いの広場として、丸太ベンチを設置する。

事業成果

学校に緑が復活したことにより、児童の豊かな情操育成につながる。また、憩いの広場の設置により、人と人とのふれあいにつながる。

事業をよく知る関係者の声

・古い校舎の時代には、学校周りに多くの植物があり緑豊



サツキツツジの植樹



ソメイヨシノの植樹



設置された丸太ベンチに座る児童



ソメイヨシノと児童との記念撮影

かであったが、工事のために緑が少なくなって寂しい気がしていた。本事業をとおして、新たな緑ができたことはありがたい。また、「憩いの広場」を中西地区のスポーツ交流会などの時に、子どもも大人もふれあえる場として活用していきたい。

参加者の声

・僕たち6年生は3月に卒業するけど、サツキツツジやサクラが成長していくのを楽しみに、またこの中西小学校にやってきたいと思う。1年生から5年生の児童の皆さんは、どうか、中西小のシンボルのケヤキの木と共にこれらの緑を大切にしていってほしい。

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：102本
丸太ベンチ：4基

参加者数

学内：83人
学外：7人
計：90人

樹種

ソメイヨシノ、サツキツツジ

学校環境緑化モデル事業

島根県益田市立桂平小学校



事業概要

「学校周辺の風致取り戻し大作戦」と題して、学校周辺の木々が校舎を覆い、子どもたちの安心・安全が確保できにくい状況であったため、木々の伐採と植樹を行った。

事業成果

木々を伐採したことにより、獣が棲みづらくなり、見通しも良くなり、安心して登下校や外遊びができるようになった。さらに、風致を取り戻すことができ、他の二条地域の風致に関する興味関心が広まった。また、地域の宝としていろいろなことをしてもらっている子どもたち。地域の方に恩返しとして、二条地域で栽培がしやすいシイタケ栽培を企画。伐採した木を再利用し、子どもたち自らシイタケ菌を植え付けた。できたシイタケを地域の施設に提供したり、祭りで販売して地域に恩返しをする予定である。

事業をよく知る関係者の声

- ・小学校周辺が自分たちも気になっていたのも、一緒に風致を取り戻すことができ、二条地域の環境に関心を持ってもらう機会になった。また、シイタケ生産は地域の立地を利用してでき、地域貢献としては絶好の産物で子どもたちのこれからが楽しみである。(携わっていただいた森林再生会の方の声)

参加者の声

- ・木々の伐採作業に参加して、改めて雑木が校舎を覆い、動物が棲みやすくなり子どもたちの安全が損なわれると思った。今回の事業に応募して良かったと思う。
- ・地域の1軒として学校が地域貢献をしようとしている姿を感じて、益々学校応援団として頑張りたいと思う。



学校周辺の雑木を伐採



伐採した木をシイタケ樽木にする作業時の記念撮影



サカキを植樹



代表児童・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.4ha
シイタケ植菌本数：100本
イベント・作業回数：6回

参加者数

学内：24人
学外：16人
計：40人

樹種

サカキ

「映える写真スポット」の整備事業

岡山県玉野市立東児中学校



事業概要

春を彩るサクラが校内には数本あるが、いずれも年を重ね、老木化が進んでいる。春の代表的な行事である入学式の際に、希望に満ちあふれた新入生が笑顔で写真を撮れるスポットとなるようにサクラの植樹を実施した。また、周囲の木の伐採など環境整備を行った。

事業成果

現在の学校周辺は多くの緑に囲まれていて、山に木があるのは当たり前と認識していたが、実は終戦頃にはこの周辺も「はげ山」状態だったことを教えてもらい、大変驚き、今ある緑を大切にしなければという思いを新たにしたい。その思いを発端として、生徒会としてSDGsに関わっていきたいと考えるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・瀬戸内の風光明媚な場所にある東児中学校であるが、植樹祭当日は、あいにくの空模様となったのが残念であった。当日生徒に向けた説明をしてくださり、分かりやすく、しかも衝撃的な内容だったことから、雨が恨めしく感じた。しかし、植物にとっては恵みの雨。この雨も含めて自然への感謝の気持ちを大切にしていきたい。

参加者の声

- ・天気が残念であったが、代表生徒のあいさつがはつらつとした声で立派であった。今回植えた木と共に東児中学校の生徒が大きく育ち、将来きれいな満開の花を咲かせてくれることを信じている。とても良い植樹祭だった。



樹木伐採後の様子



ソメイヨシノを植樹



生徒・教職員など18人が参加



植樹したソメイヨシノと設置された看板

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20㎡
植付本数：2本
伐採本数：2本
イベント：1回

参加者数

学内：13人
学外：5人
計：18人

樹種

ソメイヨシノ

学校創立 150 周年記念花壇整備事業

岡山県倉敷市立岡田小学校



事業概要

倉敷市立岡田小学校創立150周年を記念して記念植樹をするとともに、校門周辺にある樹木の整備、あいさつ通りの花壇の植え替え、玄関付近に新しく花を植えた。今後、四季折々の樹木の変化を楽しむことができる。

事業成果

児童たちは、古くなったサクラの代わりの木を植えたので今後きれいな花をつけてほしいとか、玄関付近とあいさつ通りの花壇がきれいになってうれしいとか、あまり気にしてなかった校内の樹木に関心を持つようになった。

事業をよく知る関係者の声

- 岡田小学校のある地区は、平成30年西日本豪雨で被災し、小学校が避難所になった。令和4年度からの岡田小学校創立150周年記念事業として、地区の復興の盛り上がりとして、学校の緑が整備されると、地区が元気になっていく感じがする。

参加者の声

- 学校の緑化環境が改善され、児童の情操面に好影響を与えるだろう。こういった緑化事業が身近にあることを知ることができたと思う。



シバザクラを植えた花壇前に看板を設置



花壇を整備



次世代に継ぐサクラの苗を植樹



代表児童・教職員など42人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：32.1㎡
植付本数：38本
イベント：1回

参加者数

学内：35人
学外：7人
計：42人

樹種

ソメイヨシノ、シダレザクラ、
ハナミズキ、キンモクセイ、
クチナシほか

学校創立10周年記念の庭整備事業

岡山県立倉敷まきび支援学校



事業概要

創立10周年記念事業として、荒れている土地にミニビオトープを造成し、学部・部門を越えて児童生徒がふれあい、緑に親しめる場をつくる。造園に当たっては、全て業者に任せるのではなく、レンガ敷や木柵の設置は、高等部生徒が作業学習の授業で実施し、学習への意欲付けも図った。

事業成果

通路からの景観が良くなるとともに、緑、生き物に触れる憩いの場になり、部門学部を越えた交流の場になった。学校近隣のメダカやヌマエビなどを池に放しているの、理科の授業の自然観察教材としても活用ができる。造園に高等部生徒が関わったことで、働くことの意義の学習への意欲付けにもつながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・日陰で、草がたくさん生えていて荒れていた土地がとてもきれいですてきな空間になり、子どもたちのふれあい・憩いの場になったことは意義深い。造園に高等部生徒が関わったことが良い機会であったので、今後の庭の維持管理も生徒たちの手で行ってほしい。

参加者の声

- ・自分たちの手できれいにしたところが、この後ずっと学校に残るのはうれしい。(生徒)
- ・募金をしてくださったローソンのお客様の思いにこたえられるように、みんなで利用して、人にも生き物にも植物にもやさしい気持ちができるようになりたい。(生徒)
- ・みんなのためになる活動なので、造園に関わった生徒たちは意欲的に作業ができた。(教員)



高等部生徒が授業でレンガ敷作業などを実施



完成した庭



庭にエゴノキほかを植樹



代表児童・教職員など18人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：49㎡
植付本数：8本
ビオトープ：20㎡
イベント：1回

参加者数

学内：14人
学外：4人
計：18人

樹種

エゴノキ、ツツジ、モミジ、アジサイ

志和小学校校舎新築開校記念緑化事業

広島県東広島市立志和小学校



事業概要

町内にあった3つの小学校が統合し、令和4年度に志和中学校の敷地内に志和小学校が新築し、小中一貫校としてスタートした。その記念と併せて、木々の成長とともに、児童生徒の成長の喜びを感じるシンボルとして、そして、四季折々の自然を楽しむとともに、緑豊かなふるさと志和町の自然を大切にしようとする心を育てるため、サクラを植樹した。

事業成果

植樹した木々の芽や花、実などの変化に気付き、すぐに観察することができることで、「自然が好き」と思う児童が増えた。また、「この自然を守る」という環境教育に広げることができる。そして、木々の周りに来る昆虫などを見つけてはその様子を楽しむ児童の姿が見られるようになり、生き物に関心のある児童にとって学びの場が身近

にあることが喜びにつながっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・開校記念としての植樹は、木々の成長とともに人生の成長を感じることができるものとなると思う。しかし、限られた狭い空間に植樹したため、場所によってはこれから大きくなる木々をどう剪定していき、守っていくかが課題である。さらに、害虫対策も必要である。

参加者の声

- ・サクラが咲くのが楽しみ。みなさん、「ぼきん」ありがとうございました。私たちは、このサクラを見て、いろいろなことができるようにがんばりたい。
- ・今サクラは咲いていないけど、これからも志和小中学校のシンボルになるようにがんばりたい。
- ・たくさんの方の協力で自然を増やせているので、大切にしていきたい。サクラが咲くのが楽しみ。



記念植樹の様子



植樹された木々



児童・教職員など234人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：272㎡
植付本数：81本
イベント：1回

参加者数

学内：224人
学外：10人
計：234人

樹種

ヤマボウシ、サツキ、吉野桜、ソヨゴ、ハナミズキ、ヒラドツツジ、シマトネリコ

右田小学校開校 150 周年記念緑化事業

山口県防府市立右田小学校



事業概要

右田小学校開校150周年記念緑化事業として校庭に木を植えたり、木の手入れをして学校の緑を増やす活動を行った。活動は、緑いっぱいの右田小学校にするために、①果樹園整備、②ビオトープ下草刈り・整地作業、③樹木伐採、④花壇整備、⑤樹木の名前プレート作成、⑥看板作成、⑦緑の環境整備募金を行った。

事業成果

地域との連携が深まった。また、学習活動での利用が増えた。生活科や理科の学習で使用することで、学習意欲が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・これまでの果樹園は雑草が生い茂り、子どもが学習するには厳しい環境にあった。そこで、高木を伐採し、雑草を刈り、これまでのカキ、ウメ、クリに加えてビワ、イチジク、クヌギの幼木を植樹した。数年後には立派に実をつけてくれることだろう。植樹を含めて記念式の司会、進行、来賓の接待については6年生が行ったことで、子どもが主体の記念事業になった。(校長)

参加者の声

- ・植えた樹木が大きくなって、実るのが楽しみ。(児童)
- ・ビオトープや果樹園を学校での学習に生かしていきたい。(教職員)
- ・右田地区の宝物としても、地域としても守っていきたい。(地域の方)



イチジクを植樹



クリを植樹



看板と記念撮影



完成式典の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：60㎡
植付本数：7本
下刈面積：60㎡
除伐面積：40㎡
イベント：2回

参加者数

学内：78人
学外：15人
計：93人

樹種

メタセコイヤ、カキ、クリ、ウメ、サクラ、イブキ、マツ、ビワ、イチジク、ミカン、レモン、ニオイバンマツリ

三蒲小学校創立 150 周年記念ハッピーグリーン緑化事業

山口県周防大島町立三蒲小学校



事業概要

本校のサクラの大木が老木であることと、その近くに植えられている幼木が日陰のために成長しづらい環境にあった。そのため、創立150周年を迎えるに当たり、本事業で校庭の緑環境をより良くしたいと考えた。主な活動は、①植樹とサクラの幼木の移植、②樹木の枝払いや剪定、③事業名看板、樹木名板の作成と設置、④フジ棚やフジ棚周辺の排水端末の整備。

事業成果

歴史ある三蒲小学校には、多くの記念樹があるが、本事業によって記念樹の手入れや排水溝の整備をすることができ、多くの卒業生や地域の方々の憩いの場としての環境を整えることができた。また、「美しい三蒲を創る会」の皆さんが作業されている様子を見て、児童や地域の方が枯れ葉を集めたり、清掃活動をしたりする活動の広がりが見られた。

事業をよく知る関係者の声

・三蒲小学校の校庭には、サクラやヤナギ、メタセコイアなどの大木が多くあり、長い年月を経て、樹木同士が重なり合ったり絡み合ったりして、生育への影響を心配していた。本事業により、剪定や移植などの整備をしていただいたことで、すべての樹木の成長が確保されるとともに、美しい海を眺望できる景観が確保された。本事業に携わってくださった皆様に感謝している。

参加者の声

・創立150周年記念の植樹で、自分が選んだ花木を植えることができたのでうれしい。カラタネオガタマは、常緑樹の花木でバナナのような強く強い芳香をもっているのが特徴だ。バナナのような香りのする花とは、どんな花なのかとても興味がある。今、私と同じ背丈くらいなので、これから先どんなふうになるのか、私の成長と比べながら楽しみにしている。



高所作業車で剪定・枝払作業



剪定後の枝の粉碎作業



創立150周年記念植樹セレモニーへ50人が参加



植樹・移植後の樹木と看板

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3㎡
植付本数：3本
下刈面積：250㎡
除伐面積：10㎡
間伐面積：200㎡
フジ棚整備
排水整備
イベント：1回

参加者数

学内：50人
学外：3人
計：47人

樹種

植樹：ハナミズキ、カラタネオガタマ、タムシバ
剪定・枝払：メタセコイア、ヤナギ、ケヤキ、ツツジ、マツ、クロガネモチ、ウバメガシ

学校環境緑化モデル事業

山口県下関市立桜山小学校



事業概要

歴史ある下関市立桜山小学校の大切なサクラが付近の電線と干渉しており、また、落葉により地域住民及び児童の歩行の安全性にも問題があった。「桜山」の象徴でもあるサクラを、子どもたちをはじめ、地域の方や教職員も含め、学校全体で受け継いでいくとともに、サクラをシンボルとして、学校と地域がつながり、より良い地域連携活動を推進していくことを目的として、樹木の剪定と植樹を行った。

事業成果

本事業により、子どもたちがより桜山小学校のサクラのすばらしさや本校の誇りを再認識することができるとともに、「本校の伝統を受け継いでいこう」という気持ちを育むことができるのではないかと考える。また、未来の桜山小学校に入学する子どもたちに向けて本校のシンボルであるサクラをすばらしい形として残す良い機会となった。子どもたちは、サクラの開花を楽しみにしている。

事業をよく知る関係者の声

- ・歴史ある学校名にも「桜」が使われ、学校のシンボルでもあるサクラをより良い状態で後世に受け継いでいこうとする本事業は、とてもすばらしい事業だったのではないだろうか。春には美しい花を咲かせ、子どもたちや教職員、地域の方の目を楽しませてくれるサクラ。電線干渉や落葉による不安材料があったが、本事業により、整えられた環境の中で、ふるさとを愛する気持ちをはぐくんでいきたい。

参加者の声

- ・国土緑化推進機構様、やまぐち農林事務所様、ローソン様のご協力のもと、サクラの枝払いや剪定、植樹をしていただき、大変うれしく思う。ありがとうございます。これまで、電線に干渉していたサクラも枝払いにより危険を感じることはなくなった。植樹してくださったサクラも大切に育てていきたい。サクラの花を見る度に、桜山小学校での思い出がきつとよみがえってくるのだろう。



大きくなったサクラが電線と干渉



植樹・看板を設置する場所



ソメイヨシノを植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1㎡
植付本数：1本
除伐面積：0.5ha
イベント：1回

参加者数

学内：53人
学外：5人
計：58人

樹種

ソメイヨシノ

香川県立善通寺養護学校 学校環境緑化モデル事業

香川県立善通寺養護学校



事業概要

本校は、隣接していた小児病院移転に伴い、善通寺市伏見町から仙遊町に移転して10年になる。移転当初植えた樹木も年数を重ねて何本か成長が止まったり枯れたりした。また、今年は学校創立50周年を迎え、その記念になる行事を考えていた。そこで、本事業で創立50周年にふさわしい記念樹「ソメイヨシノ」を植え、校庭周辺の樹木を整える事業を行った。

事業成果

以前から校庭に植えている「ハナミズキ」の枯れた木に代わって新しい木が植えられ、「ハナミズキ」が揃った。また、校庭に新にサクラが植えられることによって、本校のシンボルツリーができた。記念植樹直後に行われた委員会活動では、木の育て方を知った生徒たちから、水やりなど木の世話をぜひやりたいという声が出てきた。樹木が増えて「創立50周年記念式典」にふさわしい環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

- ・「ハナミズキ」が新しく植えられ、アベリアの剪定も行われ、校庭の樹木が揃ってきれいになった。
- ・サクラが植えられ、本校のシンボルツリーができ、春の入学式での写真撮影など、春の季節が楽しみになった。
- ・全校生徒が運動場に集まって行う行事は久しぶりで、天候に恵まれ、すばらしい記念植樹の式典になった。

参加者の声

- ・記念植樹の式典で司会を任され、緊張したけれど、すごく自信になった。生徒会での自分の仕事ができた。
- ・紅白のスコップを持って、来賓の方と一緒に土入れを行い、思い出になった。
- ・樹木の世話をしたいという気持ちが芽生えた。春が楽しみになってきた。
- ・運動場で集まることはなかったので、少し緊張したけれど、天気も良くて気持ち良かった。



剪定された木々



ソメイヨシノを植樹



児童・教職員など174人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：23本
剪定本数：5本
イベント：1回

参加者数

学内：170人
学外：4人
計：174人

樹種

植樹：ソメイヨシノ、ハナミズキ、アベリア
剪定：アベリア、オリーブ、ツツジ、サツキ、カナメモチ

ハート池の整備及び樹木の剪定

香川県綾川町立綾上小学校



事業概要

理科や生活科の学習の場にするとともに、異学年交流の場としても活用するため、小学校北庭にある「ハート池」を、水深30cmまで埋め立てて、メダカの観察池にした。また、池周辺にアジサイを植樹したことで、ランチルームから鑑賞できるようになった。

事業成果

休み時間や授業中にハート池へ行き、メダカの観察ができるようになった。今後は、異学年で自然を観察することが期待される。水生生物を観察したり、育てたりする活動により、自然愛護、生命尊重の心を育むことも期待される。

事業をよく知る関係者の声

- これまでは深く危険だったため、児童が近づくことを禁止していた。本事業で、児童の学習の場、憩いの場として整備でき、今後の活用が楽しみである。
- 今後の管理については、地域に協力いただくなど、持続可能な方法を検討したい。

参加者の声

- 今までとは一新された感じで、すごくうれしい。メダカなどの水の生き物とふれあえる場所ができたので、これから楽しみだ。
- 理科や生活科の授業に役立てられる。自然としっかりとふれあいたい。きっとハート池も喜んでいると思う。



整備された「ハート池」



アジサイの植樹



剪定されたクスノキ

実績とりまとめ

作業内容

植樹本数：10本
剪定本数：1本
ハート池再整備：44㎡
イベント：1回

参加者数

学内：30人
学外：5人
計：35人

樹種

植樹：アジサイ
剪定：クスノキ

ふるさとの森 緑化事業

愛媛県西予市立大野ヶ原小学校



事業概要

大野ヶ原小学校は、標高1160mに位置し周りが山と牧場に囲まれた自然豊かな学校である。児童数は6名。本事業では、子どもたちが楽しく集える美しいふるさとの森を再生するため、校地にある樹木の剪定、枝払い及び植樹を行った。

事業成果

PTAや職員では手入れができない樹木の枝払いや剪定により、校庭がきれいになり、学校教育環境が整った。これに加え、植樹をしたことにより、みんなで樹木にふれあえる場ができ、学校生活の楽しみが増えるとともに、愛校心の向上が期待できる。今後、大野ヶ原小学校独自の新たな活動が期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 手入れの行き届いていない樹木を枝払い、剪定をすることにより、学校教育環境が整った。さらに、花を鑑賞できるハナモモの植樹により、春の入学シーズンに咲き、新入生を歓迎するとともにその成長過程が在校生に楽しみをもたらすのではないかな。

参加者の声

- ・ 校庭の樹木は大きく育ちすぎたため、なかなか手入れができない状態であったが、本事業により手入れができ、生徒が心地よく学校生活を送ることができるようになって良かった。それに加えて花木を植樹したことで、学校の雰囲気が明るくなり、春がより楽しみになった。この機会が学校での良い思い出となり、いつでも楽しく集える場所となることを願っている。



植樹の様子



ハナモモを植樹



植樹横に看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：9本
剪定・枝払本数：8本
イベント：1回

参加者数

学内：6人
学外：15人
計：21人

樹種

植樹：ハナモモ

羽根えがプロジェクト

高知県室戸市立羽根小学校



事業概要

本校は児童数の減少に伴い、学校の環境整備が十分行き届かなくなってきた。また、海に隣接しており台風や雨風に影響を受けやすい環境にある。そのため、本事業ではPTAや子どもたちと、歩道の整備やウッドチップで遊具周辺を舗装したり、校庭の樹木の手入れを通して、愛着のもてる学校、子どもたちの笑顔があふれる学校環境づくりをしていきたい。

事業成果

歩道の両面に丸太を並べることで雨風による土の堆積を防ぐことができ、子どもたちが雨でもぬかるむことなく登校できるようになった。また、遊具周辺の舗装により雨上がりでも水たまりができず楽しく遊ぶことができるようになった。さらに、校庭や中庭の樹木の剪定をしたことで子どもたちが季節や自然に親しみをもつことができるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校周辺の方たちやコミュニティスクールの委員の方たちから学校が明るくなった、子どもたちの元気な姿がこれまで以上にみられるようになったと声を寄せていただいた。この事業では、地域を巻き込んだ取り組みまで広げることができなかったが、地域ぐるみで子どもたちを育んでいく風土を作っていくためには今後、地域の協力ももらいながら学校づくりを進めていきたい。

参加者の声

- ・記念式典で、ぼくは児童代表でのあいさつをした。緊張して、のどまで響くくらい心臓がドキドキした。式典の最後に、お客さんや校長先生、担任の先生とサクラを植えた。自分が大きくなったらみんなに自慢したい。
- ・遊具の周りにウッドチップで舗装する仕事も手伝わせてもらった。下級生が喜んでくれてうれしかった。貴重な体験をし、お世話になったたくさんの人に感謝したい。



ウッドチップで遊具周辺を舗装



丸太で歩道を整備



完成式典の様子



児童・教職員など23人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8㎡
植付本数：3本
下刈面積：0.68ha
歩道：丸太15本
ウッドチップ舗装：20㎡
イベント：1回

参加者数

学内：64人
学外：35人
計：99人

樹種

植樹：サクラ
剪定：ウバメガシ、センダン、
ウメ、オリーブ、クロ
マツ、サザンカ、イヌ
マキ

学校環境緑化モデル事業(校内緑化整備事業)

福岡県朝倉市立秋月小学校



事業概要

本校は、50年前近隣の4つの小学校が統合してでき、その際に、4つの小学校にあった記念の石を集めてできたのが「岩石園」である。当時は、メダカやハヤなどの水生生物が生きることができるビオトープがあったが、最近は、水も流れずに草が多い茂った状態であった。そこで、本年度、統合50周年を記念して、岩石園の整備とビオトープ復活のために、本事業に着手した。

事業成果

森の名前を「ふるさとの森」に決定し、秋月小学校の子どもたちが自慢できる場所になった。岩石園のビオトープを復活させ、岩場に水が流れるようにするとともに、マツの剪定やシダレザクラを新たに植樹したことで、四季の移り変わりを感じることができる。今後も、「ふるさとの森」を子どもたちの活動の場にするために、緑の中で豊かな心が育まれる教育活動を展開していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・私が子どものころ、岩石園のビオトープには、様々な生き物が住んでいた。近くの川で魚がとれた時には、学校のビオトープにはなして、みんなで楽しく観察していた。今回、記念式典に参加し、50年前の姿に戻った岩石園を見て、本当に感無量であった。今後も、自然豊かな秋月小学校で子どもたちが、すくすくと健やかに育ってほしい。

参加者の声

- ・秋月小学校の自慢は、緑がいっぱいあって自然が豊かなところである。事業で、秋月小学校の自慢できる場所ができた。それが、岩石園。春には、私たちが植樹したシダレザクラがきれいに咲き、夏は、岩石園に水が流れ、ビオトープに泳ぐ魚を見ることができ、秋には、赤く色づいたモミジも見ることができる。四季の移り変わりを感じながら、これからもしっかりと学び、成長していきたい。



植樹の様子



岩石園の様子



代表児童・教職員など約30人が参加



「ふるさとの森」事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
伐採本数：1本
剪定本数：1本
岩石園の修理
ビオトープの整備
イベント：1回

参加者数

学内：25人
学外：6人
計：31人

樹種

植樹：シダレザクラ
剪定：マツ
伐採：ケヤキ

第四小学校ふれあい池ビオトープ改修

長崎県島原市立第四小学校



事業概要

既存の「ふれあいの池」を改修し、自然体験の充実を図ることを目的に、ビオトープの整備（洗浄・除草、水中ポンプ設置、配管工事、パネル設置、植生など）を行った。また、より自然に近い環境にするために、水草や浮き草の整備を行うとともに、メダカを放流し生き物が集う池へと蘇った。

事業成果

常に水が循環されているので、水がきれいなだけでなく、メダカや金魚が気持ち良く安心して泳いでいる。ふれあい池が校庭へとつながる子どもたちの動線沿いにあるため、通る度に池や魚に目を配る子どもが増えた。メダカなどが泳いでいる様子を観察できるため、笑顔や会話が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校敷地内にある池の環境が整うことで、子どもたちが日常からふれあうことができ、自然とともに生活することができるようになった。もともとある芝生のグラウンドに合わせ、今回のふれあい池が整備されたことで、自然と調和した魅力ある学校になり、保護者や地域住民も足を運びたくなった。

参加者の声

- ・ふれあいの池が整備されたことで、気持ち良く過ごせ、学びがいのある施設・環境へと変わった。本校は、地域に生息するホタルの学習に取り組んでいることもあり、その学習と関連させて行うことで、学びの広がりが期待される。自然を基盤としたふるさと教育の充実につながる。



整備されたビオトープ



メダカの放流



完成の喜びと感謝を述べる子ども



児童・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
植付本数：80本
めだか放流：50匹
イベント：1回

参加者数

学内：30人
学外：10人
計：40人

樹種（緑化植物）

リュウノヒゲ、水草

西海市立ときわ台小学校ビオトープ整備

長崎県西海市立ときわ台小学校



事業概要

コイやメダカ、カエルなどの身近な生き物にふれあえる環境の充実を図るため、ビオトープ整備（浄化槽整備・配管補修・池簡易清掃）を行った。また、皆が憩える緑と水の安らぎの場の構築を目指すために、ビオトープ整備と合わせて、ヒラドツツジやカエデなど30本の樹木の枝払い・剪定とアセビ・ノムラモミジ3本の植栽を行った。

事業成果

生活科や理科などの学習や委員会活動の活性化につながるとともに、地域の皆さんの憩いの場としての活用も期待

できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・サギなどの鳥の侵入防止のために網を張っていた池及び漏水していたビオトープが整備されたことで、子どもたちの学習の環境が整備され、生き物にふれあうことで、友達ちとの活動の場が増えて学校教育に役立つと思う。

参加者の声

- ・池がきれいになり、コイたちも喜んでいる。
- ・大切にして、学習に生かしながら、みんなで楽しんでいきたい。



整備中のビオトープ



アセビ、ノムラモミジを植樹



代表児童・教職員など41人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：40㎡
植付本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：36人
学外：5人
計：41人

樹種

アセビ、ノムラモミジ

「みんなの森」等の整備

熊本県熊本市立山ノ内小学校



事業概要

「みんなの森」は本校が開校して15年目（平成11年度）完成した。当初は児童が自然とふれあい、昆虫や鳥などの観察に利用されていたが、約25年経過し、木々も成長しすぎて少し荒れ気味になっている。本事業では、「みんなの森」をこれからも児童のふれあいの場としたいため、木々の剪定と剥がれ落ちた土を入れて植物の根を保護する活動を行った。

事業成果

25年の月日の間、大掛かりな再生事業をしてこなかったため、大きく成長した木々が光を遮り、以前植えられていた芝類も枯れ、木の根の露出されていた状態であった。本事業により、枝の剪定を大幅にして地面にも光が届くようになり、植物の成長にはプラスになった。また、土入れ・養生をしたことで、根の保護につながっている。

事業をよく知る関係者の声

・「みんなの森」の木々が年々大きくなり、雑然となっていた。このタイミングで再生していただいたことは、とてもありがたかった。これを機会に子どもたちが「みんなの森」の良さを再認識してくれればと思う。事業の面から大規模のモデル事業を行うためにはどうしても資金が必要で、今回基金からの援助はとても良かった。時期的にはもう少し早くしていただけると良かった。（保護者代表）

参加者の声

・土入れは思ったより大変だったが、楽しかった。低学年の時に、よく活動していた「みんなの森」が、今回きれいになって良かった。私たちは卒業するが、在校生の皆さんには、きれいになった「みんなの森」をこれからも大事にしてもらい、ずっと楽しめる森にしてもらいたい。（栽培緑化委員会の6年生）



整備前



整備後



児童も一緒に作業



児童・教職員など15人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
整備面積：0.4ha
下刈面積：0.4ha
除伐面積：0.4ha
イベント：1回

参加者数

学内：11人
学外：4人
計：15人

樹種

クチナシ

宇目緑豊小・宇目っ子の森事業

大分県佐伯市立宇目緑豊小学校



事業概要

宇目緑豊小学校と宇目緑豊中学校の裏山に2校を結ぶ遊歩道がある。その中央付近には、子どもたちが自然観察や昆虫採集、季節探しをする森と広場がある。本事業では、その広場の老朽化した安全柵と途中の階段をスロープにする改修工事を行った。併せて、遊歩道入口付近に植樹を行った。

事業成果

この事業以前は、裏山には特に名称がなかったが、今回の事業を受け、「みんなの森」と命名した。広場は裏山の中腹にあり、安全柵の下は崖で柵がない状況では大変危険であったが、この事業で改修され、安全となった。合計8本の記念植樹を全校児童で行い、自然の豊かさを再確認した。

事業をよく知る関係者の声

- ・遊歩道の安全柵について修繕の依頼は承知していたが、校地外の遊歩道であるので、市教委の予算では執行することが困難であった。今回の助成を受け、最も危険であった箇所の安全柵について修繕が完了したことで、児童を始めとする利用者の危険が軽減したことは大変ありがたいことである。

参加者の声

- ・広場の柵が壊れていて、下を見ると怖かったけれど、今回の工事で新しい柵ができて、うれしい。
- ・昆虫採集や自然観察、季節探しなどの活動に遊歩道や上の広場を利用していたが、柵が壊れて危険だったが、これで安心して利用できる。
- ・記念植樹をした。10年後、植えた木がどれくらい大きくなっているか楽しみ。



安全柵の設置



ツバキ、キンモクセイほかを植樹



完成式典での植樹と設置された看板



児童・教職員など72人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：8本
イベント：2回
柵及びスロープ化への改修工事

参加者数

学内：64人
学外：8人
計：72人

樹種

ツバキ、キンモクセイ、ギンモクセイ、カワツザクラ、ハナモモ

芳満川水質浄化・河畔緑化推進計画

大分県日田市立三芳小学校



事業概要

学校としては珍しく、敷地内に農業用水路が流れ「芳満川」と称して、河畔は児童の憩いの場となっている。水生生物や植物、河畔には昆虫も生育し、豊かな環境である。しかしながら、当初河畔に植えた芝生がなくなり雑草が生い茂っている。川底にも泥が溜まり景観が損なわれている状態である。そこで、河川の水質浄化と河畔の緑化再整備を目的とした河川工事、植樹、樹木の手入れなどを行った。

事業成果

芳満川50年の歴史により培われた趣と営みをビオトープとして再生できた。また、前庭やほとりには、アヤメ、キンモクセイ、ウメ、シバザクラが植えられ、既に生育していた植物とも合わさって、四季折々、絶え間なく1年中、校庭のどこかで花が咲いている学校となった。そして、昭和

の「思い」を発掘し、三芳小学校の令和型SDGs教育として再構築できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・芳満川の存在を改めて確認できた。本事業は工事関係は事業者が行い、細かな作業を児童が中心となって取り組んだ。式典にて地域の方々へ披露できたが、今後は児童を中心に保護者の協力も得ながら、継続して環境緑化を推進する必要がある。一部の取り組みではなく、地域の取り組みに広がると良いと思う。

参加者の声

- ・歴史ある芳満川は三芳の誇りである。
- ・今後も憩いの場としての芳満川を大切にしていきたい。
- ・芳満川の自然を守ることは、近隣の自然を守ることにもつながると思った。
- ・生き物が暮らすことのできる場所として芳満川を守ってきたい。
- ・芳満川を教材として多くのことを学ばせていきたい。



ウメを植樹



看板を設置



河畔整備



芳満川に入って川底の掃除

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：113本
イベント：1回

参加者数

学内：300人
学外：27人
計：327人

樹種（緑化植物）

キンモクセイ、ウメ、シバザクラ、アヤメ

都農町立都農南小学校「南っ子庭園」再生事業

宮崎県都農町立都農南小学校



事業概要

環境への関心を高め、愛校心を育てるために、約50年前に造られた中庭「南っ子庭園」の再生を行う。その際、児童一人一人がシバザクラを植えたり、季節を感じる植物を植えることができる花壇を整備した。

事業成果

中庭の再生を行うことで、子どもたちが環境に目を向けるようになった。朝のボランティア活動や清掃の時間に積極的に中庭に関わり、学校をきれいにしようとする意識が高まった。季節ごとに咲く花や中庭の池に住む生き物への関心も高まり、学習の場として活用する場面が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・中庭のコンセプトである「学びの場」「憩いの場」「つながりの場」について協議し、その内容が形となり喜んでいいる。今後もこの環境を維持していったほしい。学校と共に学校環境の緑化に努めていきたい。(学校運営協議会委員の声)

参加者の声

- ・「南っ子庭園」が、都農南小学校の自慢の場所となるよう下級生と共にきれいにしていきたい。大人になったときにどのようなものになっているか楽しみにしている。(式典に参加した児童の声)
- ・中庭は、今後PTA奉仕作業でも手を加えていき、保護者も加わりながら維持・発展させていきたい。(PTA会長の声)



看板の除幕式



記念植樹の様子



児童・教職員など42人が参加



整備された「南っ子庭園」

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：505本
花壇の新設：3面
築山の整備
イベント：1回

参加者数

学内：31人
学外：11人
計：42人

樹種（緑化植物）

モミジ、シバザクラ

大宮小学校 夢の森緑化事業

宮崎県宮崎市立大宮小学校



事業概要

本校は宮崎市の中心市街地に位置し、創立132年目を迎えた歴史ある小学校である。敷地内には大木が多数あるが、安全上危惧する樹木もあり、児童の学習活動が制限される状況もあった。本事業を活用し、枝払いや剪定、伐採を行うことで安全に子どもたちが過ごすことのできる環境整備を目指した。

事業成果

台風被害のため、運動場にある大木が倒木の危険があった。また、正門付近の木々が生い茂って枝が電線にかかったり、緊急時の避難経路の妨げになる可能性があり、安全上の不安があった。そのため、これらの樹木の枝払いや伐採などを実施。その結果、立ち入り禁止箇所がなくなり、児

童が安心して学習活動に取り組める環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

- ・倒木の恐れなどにより児童の活動を制限せざるを得ない場所があった。行政に対応していただいた部分もあったが、全ては実施できなかったため、本事業を活用させていただき、環境整備を行えたことは大変ありがたかった。どの学校でもこのような事業が活用されると良い。

参加者の声

- ・式典に参加し、大きな事業であることや(株)ローソンがこのような地域貢献をしていることも初めて知った。このような機会をいただけたことを保護者としても大変感謝している。歴史ある学校なので、この良い環境が続き、新たな歴史が刻まれていくことを願っている。(保護者)



大木の伐採作業



看板を設置



代表児童・教職員など約50人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
剪定・枝払本数：11本
伐採本数：4本
イベント：1回

参加者数

学内：45人
学外：6人
計：51人

樹種

ヤマボウシ

トンボとメダカが育つ大川内ビオトープ

鹿児島県出水市立大川内小学校



事業概要

児童に身近な生き物や自然環境に興味を持たせるため、児童や保護者、地域住民が一体となってビオトープなどを整備することで、児童が楽しみながら自然を学び、体験できる環境教育のフィールドを整備する。また、環境保全への意識を高めたり生態系に関する理解などを深めることにより、生涯に渡って地球の生き物と共存しながら生きていくという心情を育てたい。

事業成果

ビオトープを整備したことで、生き物を間近で観察したり触ったりする姿もよく見られた。自然環境への興味を高めることができた。また、教科などで学習したことについて、実際に観察したり体験したりすることで、確かな学力の定着にもつながった。休み時間にゆっくり座って過ごす児童もあり、心身を癒やしたり会話を楽しむ場にもなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・事業前のビオトープは、魚を野鳥が食べたり、夏は池の水温が上がりすぎたりして管理面で苦勞することが多かった。池の隣の火山オブジェもゴツゴツした石が散乱していて、児童が通るには危険だった。今回、池の上にウッドデッキを整備したことで管理面の課題や火山オブジェの危険性も解消された。児童が安全に生き物を観察できる場になった。

参加者の声

- ・立派なビオトープができて、児童にとってとても良いことだと思った。大川内の生き物がビオトープに一つ、二つと住み着いてくるはずなので、どんな生き物が池にいるのか、どんなものを食べたりどんな生き物に食べられたりするのかわよく観察してほしい。大川内の生き物の世界を知ることにつながるはずだ。



記念植樹の様子



完成式典はビオトープで実施



児童・教職員など32人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8㎡
植付本数：13本
除伐本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：22人
学外：10人
計：32人

樹種

サツキ、ツツジ、アセビ、ハクサンボク、アジサイほか

学校環境の緑化教育を推進する

沖縄県読谷村立読谷小学校



事業概要

校内花いっぱい運動や環境教育などを通して児童の豊かな心を育成していくこと、そして、気候変動に対する関心や持続可能な社会を形成するための機運を高めたいことから本事業に取り組んだ。主な活動として、植樹と花壇土壌改良工事を実施した。

事業成果

児童玄関前の花壇を整備したので、児童の登下校を明るく見守る花々のお世話を主体的に取り組むことができる。また、ハウライカガミが成長した際には、オオゴマダラの成長観察などを通して、児童の情操教育につながるとされる。

事業をよく知る関係者の声

- ・長年手入れが行き届かず、土壌が硬くて手入れが大変だった花壇の土壌改良を実施でき、季節の花々を栽培することができるようになった。また、校門前にサガリバナを植樹したので、成長し開花の時期には、夜空にきれいに垂れ下がる花を見ることが楽しみである。

参加者の声

- ・花壇の土が柔らかくなったので、雑草取りや花々の手入れがしやすくなった。
- ・プランター用の培養土を準備することができたので、卒業式や入学式に向けた、花づくりがしやすくなった。
- ・花の咲く木を植樹したので、大きくなって成長したときにいっぱい花を咲かせてほしい。

(参加者：栽培委員会)



完成式典の様子



校庭にて記念植樹を実施



植樹と花壇の土壌改良



代表児童・教職員など23人が参加

実績とりまとめ

作業内容

土壌改良面積：36㎡
植付本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：18人
学外：5人
計：23人

樹種

サルスベリ、サガリバナ、イッペー、ハウライカガミ

ビオトープの整備を行い、環境教育の推進

沖縄県北中城村立島袋小学校



事業概要

校内花いっぱい運動や環境教育などを通して児童の豊かな心を育成していくこと、そして、気候変動に対する関心や持続可能な社会を形成するための機運を高めたことから本事業に取り組んだ。主な活動として、ビオトープ周辺の整備を実施した。

事業成果

ビオトープ周辺を整備したことにより、池の生き物観察を通して、児童の情操教育につながるとされる。

事業をよく知る関係者の声

- ・ビオトープ周辺の整備により、池の生き物の観察がより行いやすくなり、児童の情操教育が期待される。

参加者の声

- ・日々の管理を継続的に続けていくことの大切さを痛感した。(50代女性)
- ・自然とふれあえる機会が減少している中、このような企画はとても良いと感じた。(50代男性)
- ・メダカが楽しそうに泳いでいて、うれしかった。(小学生女子)



植樹したヒガンザクラと池



児童もヒガンザクラの植樹に参加



完成式典の様子



児童・教職員など25人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：6本
下刈面積：400㎡
除伐面積：100㎡
池の整備
イベント：1回

参加者数

学内：20人
学外：5人
計：25人

樹種

タブノキ、オキナワウラジロ
ガシ、ヒカンザクラ、花苗